平成２１年度
第２回 診療報酬調査専門組織・慢性期入院医療の包括評価調査分科会

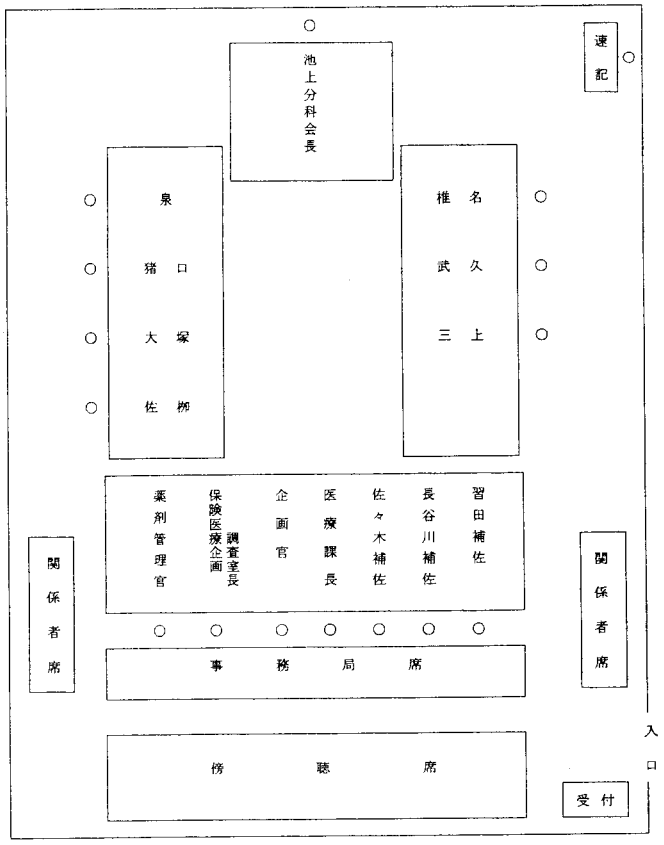
日時：平成21年６月11日（木）10：00～12：00
場所：共用第七会議室（五階）

議　事　次　第

1　平成２０年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査について

2　その他

診療報酬調査専門組織（慢性期入院医療の包括評価調査分科会）座席表
（日時）平成21年6月11日（木）10：00～12：00
（会場）厚生労働省共用７会議室（５階）



診療報酬調査専門組織・慢性期入院医療の包括評価調査分科会委員一覧

＜委員＞

	氏　名	所　属　等
◎	池上　直己	慶應義塾大学医学部教授（医療政策・管理学）
	泉　キヨ子	金沢大学医薬保健研究域保健学系 看護科学領域・臨床実践看護学講座教授
	猪口　雄二	医療法人財団寿康会病院理事長･院長
	大塚　宣夫	医療法人社団慶成会青梅慶友病院理事長
	佐柳　進	独立行政法人国立病院機構 関門医療センター院長
	椎名　正樹	健康保険組合連合会理事
○	高木　安雄	慶應義塾大学大学院教授
	武久　洋三	医療法人平成博愛会博愛記念病院理事長
	三上　裕司	特定医療法人三上会総合病院東香里病院理事長

◎分科会長　　○分科会長代理

診調組　慢－1
２１．６．１１

平成２０年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査　集計結果

１．調査の目的

療養病棟入院基本料等の医療の実態を調査し、診療報酬改定の検討資料とすることを目的とした。

２．調査対象・調査方法

平成１８年度調査の方法を踏襲しつつ、患者分類に基づく包括評価導入に伴う配置職員、患者構成、コストの変動等、医療療養病床の実態の調査を実施した。
調査施設数は、全国の医療療養病床を有する病院及び診療所から原則として無作為抽出を行い、病院 700 施設、診療所 650 施設とした。

（１）施設特性調査
平成２１年３月１日時点で療養病棟入院基本料又は有床診療所療養病床入院基本料を算定している保険医療機関を対象に、職員配置の変動及び入退院患者数、入退院患者の患者分類区分、入院元・退院先、入退院理由等の入退院患者の状況について調査を実施した。

（２）患者特性調査
平成２１年３月１日時点で施設特性調査を行う医療機関に入院している患者に対し、年齢・入院期間・医療区分等の基本属性や提供されている医療サービスの内容について調査を実施した。

（３）コスト調査
平成２０年１０月１日時点で療養病棟入院基本料を算定している保険医療機関を対象に、調査対象医療機関の人件費、減価償却費、医薬品費、材料費等の払い出し量等について調査を実施した。

（４）レセプト調査（病院、診療所）
患者特性調査を実施した病院及び有床診療所における療養病棟入院基本料又は有床診療所療養病床入院基本料が算定されている入院患者の平成２１年１月診療分の診療報酬明細書を用い、療養病棟入院料Ａ～Ｅ等の算定状況、医療区分の該当状況等について調査を実施した。

（５）レセプト調査（国保支払い分）
全国の療養病棟入院基本料又は有床診療所療養病床入院基本料が算定されている入院患者の算定状況を把握するために、国民健康保険からの支払いに係る者のうち約 12,500 件（平成２１年１月診療分）の診療報酬明細書を収集した。

３．調査結果

平成 20 年度調査における下記の調査について集計を行った。

集計対象数（病院）

調査票	件数	
	平成２０年度調査	（参考）平成１８年度調査
１．施設特性調査	１３６施設	８５施設
２．患者特性調査	１３６施設	８５施設
３．コスト調査	４４施設	６９施設
４．レセプト調査（病院）	６６施設	６９施設
５．レセプト調査（国保支払い分、病院）	12,561 件	115,409 件

集計対象数（診療所）

調査票	件数	
	平成２０年度調査	（参考）平成１８年度調査
１．施設特性調査	９７施設	—
２．患者特性調査	９６施設	—
３．レセプト調査（診療所）	６４０件	—
４．レセプト調査（国保支払い分、診療所）	９３５件	—

（注）平成 18 年度調査では、診療所（109 施設）における患者分類分布の調査のみ実施。

平成 20 年度

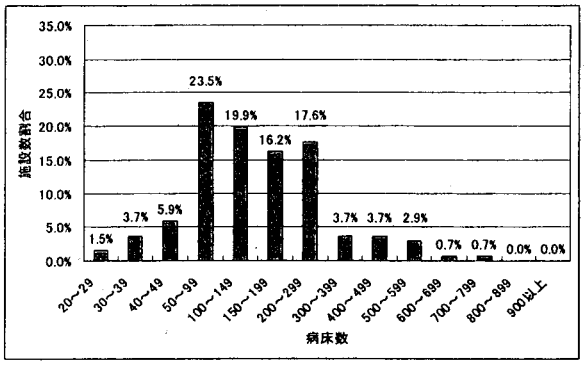
慢性期入院医療の包括評価に関する調査　集計結果

施設特性調査
（病院）

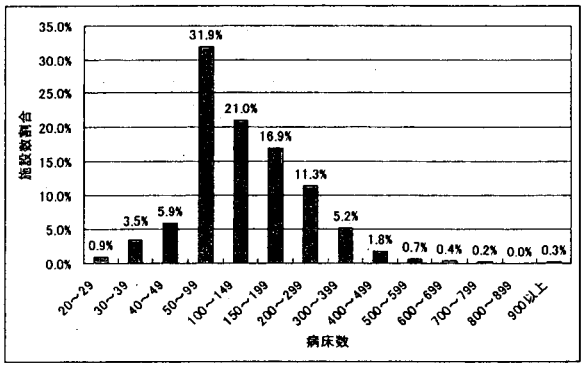
平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査」
《施設特性調査（病院）集計結果》

1 基本情報

■施設規模別施設数割合（総病床数）（n＝136）［図表1］



（参考）「平成18年医療施設調査（動態調査）病院報告（全国編）上巻
第９表　病院数、病院―病床の種類・病床の規模別　療養病床を有する病院」より（n＝4243）



■承認等の状況別施設数 [図表2]

承認等の状況	施設数
1. 地域医療支援病院	1
2. 病院群輪番制病院	33
3. 在宅療養支援病院	3
4. 地域連携診療計画管理病院	0
5. 地域連携診療計画に記載された連携医療機関	42

■入院基本料等加算施設数(複数回答) [図表3]

項目	施設数
診療録管理体制加算	32
療養病棟療養環境加算1	78
療養病棟療養環境加算2	16
療養病棟療養環境加算3	29
療養病棟療養環境加算4	9
栄養管理実施加算	123
医療安全対策加算	14

2 病床数の増減状況(136病院)

■医療療養病棟の病床数が増減した病院における病床数の変化 [図表4]
(平成21年3月と平成20年3月との比較)

	医療療養病棟の病床数が減少した病院		医療療養病棟の病床数が増加した病院	
	病院数	延べ病床数	病院数	延べ病床数
①医療療養病棟	12	-275	18	542
②上記のうち 病床数全体純増減分	0	0	3	55
③差し引き(①−②) 病床数全体の増減を除いた医療療養病棟の増減数	-	-245	-	487
内訳)一般病床の特殊疾患療養病棟	2	111	1	1
内訳)一般病床の障害者施設等入院基本料算定病棟	3	62	3	113
内訳)その他一般病床	5	7	9	-139
内訳)療養病床の回復期リハビリテーション病棟	7	183	2	-20
内訳)精神病床	0	0	0	0
内訳)医療保険その他	0	0	1	-50
内訳)介護療養病床	3	-100	11	-446
内訳)介護保険その他	1	12	2	54

3 医療療養病棟における職員配置の変化 (20年2月→21年2月)

■医療療養病棟における職員1人当たり患者数の変化 [図表5]
(20年2月→21年2月) (n=122)

		平成20年2月	平成21年2月
看護職員1人当たりの患者数	平均値	15.7	15.4
	中央値	15.7	15.3
	最小値	4.7	5.1
	最大値	33.0	27.5
	標準偏差	4.7	4.3
看護補助者1人当たりの患者数	平均値	15.8	15.6
	中央値	15.7	15.3
	最小値	2.5	4.5
	最大値	31.5	38.0
	標準偏差	4.3	4.4

※2期間において医療療養病棟を有する共通病院(122病院)を集計。

■医療療養病棟における職員1人当たり患者数の変化 [図表6]
(18年11月→20年2月→21年2月) (n=22)

		平成18年11月	平成20年2月	平成21年2月
看護職員1人当たりの患者数	平均値	15.3	15.9	15.8
	中央値	15.8	14.9	15.2
	最小値	8.9	6.9	7.0
	最大値	20.4	33.0	23.8
	標準偏差	3.5	4.8	3.5
看護補助者1人当たりの患者数	平均値	15.2	16.9	16.8
	中央値	14.9	17.0	16.3
	最小値	8.5	9.4	8.1
	最大値	24.5	23.5	38.0
	標準偏差	3.6	4.0	5.0

※3期間において、医療療養病棟を有する共通病院(22病院)を集計。

※算出式
看護職員1人当たりの患者数 =1日平均患者数/{看護師と准看護師の月延べ勤務時間数(日勤+夜勤)/(月の日数×24時間)}
看護補助者1人当たりの患者数=1日平均患者数/{看護補助者の月延べ勤務時間数(日勤+夜勤)/(月の日数×24時間)}

4 医療療養病棟における入退院患者の構成の変化

■医療療養病棟の入院元別100床当り新入院(転棟)患者数および構成比 [図表7]
(n=129、単位:人) (平成21年2月中)

入院(転棟)元		患者数	構成比
院外	自宅(訪問診療、訪問看護等 なし)	1.66	12.3%
	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.51	3.8%
	有料老人ホーム等*	0.26	2.0%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.37	2.7%
	介護老人保健施設	0.49	3.6%
	他の医療機関の一般病床	5.28	39.1%
	他の医療機関の医療療養病床	0.31	2.3%
	他の医療機関の介護療養病床	0.03	0.2%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.25	1.9%
	他の医療機関のその他の病床	0.03	0.2%
(再掲)院外のうち同一法人内の場合	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.09	0.7%
	有料老人ホーム等*	0.09	0.7%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.02	0.1%
	介護老人保健施設	0.37	2.7%
	他の医療機関の一般病床	1.46	10.9%
	他の医療機関の医療療養病床	0.06	0.4%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.07	0.5%
	他の医療機関のその他の病床	0.00	0.0%
院内	自院の一般病床	3.42	25.4%
	自院の回復期リハビリテーション病棟	0.16	1.2%
	自院の亜急性期病床	0.00	0.0%
	自院の特殊疾患病棟(入院医療管理料)	0.00	0.0%
	自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	0.29	2.2%
	自院の介護療養病床	0.35	2.6%
	自院のその他の病床	0.07	0.5%
不明		0.04	0.3%
合計		13.52	100.0%

※有料老人ホーム等:グループホーム、ケアハウス(軽費老人ホーム)を含む

■一般病床併設あり 医療療養病棟の入院元別100床当り新入院(転棟)患者数 [図表8]
(再掲) (n=63、単位:人)

入院(転棟)元		患者数	構成比
院外	自宅(訪問診療、訪問看護等 なし)	0.51	4.3%
	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.15	1.3%
	有料老人ホーム等*	0.07	0.6%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.09	0.7%
	介護老人保健施設	0.07	0.6%
	他の医療機関の一般病床	1.76	14.8%
	他の医療機関の医療療養病床	0.18	1.5%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.11	0.9%
	他の医療機関のその他の病床	0.00	0.0%
(再掲)院外のうち同一法人内の場合	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.00	0.0%
	有料老人ホーム等*	0.00	0.0%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.02	0.2%
	介護老人保健施設	0.02	0.2%
	他の医療機関の一般病床	0.26	2.2%
	他の医療機関の医療療養病床	0.13	1.1%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.00	0.0%
	他の医療機関のその他の病床	0.00	0.0%
院内	自院の一般病床	7.74	65.0%
	自院の回復期リハビリテーション病棟	0.35	3.0%
	自院の亜急性期病床	0.00	0.0%
	自院の特殊疾患病棟(入院医療管理料)	0.00	0.0%
	自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	0.66	5.6%
	自院の介護療養病床	0.22	1.9%
	自院のその他の病床	0.00	0.0%
不明		0.00	0.0%
合計		11.91	100.0%

※有料老人ホーム等:グループホーム、ケアハウス(軽費老人ホーム)を含む

■一般病床併設なし 医療療養病棟の入院元別100床当り新入院(転棟)患者数 [図表9]
(再掲) (n=66、単位:人)

入院(転棟)元		患者数	構成比
院外	自宅(訪問診療、訪問看護等 なし)	2.57	17.5%
	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.79	5.3%
	有料老人ホーム等*	0.42	2.9%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.59	4.0%
	介護老人保健施設	0.82	5.6%
	他の医療機関の一般病床	8.06	54.8%
	他の医療機関の医療療養病床	0.42	2.9%
	他の医療機関の介護療養病床	0.05	0.4%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.37	2.5%
	他の医療機関のその他の病床	0.05	0.4%
(再掲)院外のうち同一法人内の場合	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.16	1.1%
	有料老人ホーム等*	0.16	1.1%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.02	0.1%
	介護老人保健施設	0.65	4.4%
	他の医療機関の一般病床	2.41	16.4%
	他の医療機関の医療療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.12	0.8%
	他の医療機関のその他の病床	0.00	0.0%
院内	自院の一般病床		
	自院の回復期リハビリテーション病棟		
	自院の亜急性期病床		
	自院の特殊疾患病棟(入院医療管理料)		
	自院の障害者施設等入院基本料算定病棟		
	自院の介護療養病床	0.45	3.1%
	自院のその他の病床	0.12	0.8%
不明		0.07	0.5%
合計		14.73	100.0%

※有料老人ホーム等:グループホーム、ケアハウス(軽費老人ホーム)を含む

■医療療養病棟の退院先別100床当り退院(転棟)患者数および構成比 [図表10]
(n=129、単位:人)

退院(転棟)先		患者数	構成比
院外	自宅(訪問診療、訪問看護等 なし)	2.54	18.0%
	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	1.12	8.0%
	有料老人ホーム等*	0.35	2.5%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.58	4.1%
	介護老人保健施設	1.16	8.2%
	他の医療機関の一般病床	1.86	13.2%
	他の医療機関の医療療養病床	0.20	1.5%
	他の医療機関の介護療養病床	0.03	0.2%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.02	0.1%
	他の医療機関のその他の病床	0.12	0.8%
(再掲)院外のうち同一法人内の場合	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.20	1.5%
	有料老人ホーム等*	0.06	0.4%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.06	0.4%
	介護老人保健施設	0.65	4.6%
	他の医療機関の一般病床	0.51	3.6%
	他の医療機関の医療療養病床	0.04	0.3%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.01	0.1%
	他の医療機関のその他の病床	0.00	0.0%
院内	自院の一般病床	0.61	4.4%
	自院の回復期リハビリテーション病棟	0.05	0.3%
	自院の亜急性期病床	0.00	0.0%
	自院の特殊疾患病棟(入院医療管理料)	0.00	0.0%
	自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	0.05	0.3%
	自院の介護療養病床	0.63	4.5%
	自院のその他の病床	0.05	0.3%
不明		0.05	0.3%
死亡退院		3.15	22.3%
合計		14.10	100.0%

※有料老人ホーム等:グループホーム、ケアハウス(軽費老人ホーム)を含む

■一般病床併設あり 医療療養病棟の退院先別100床当り退院(転棟)患者数 [図表11]
(再掲) (n=63、単位:人)

退院(転棟)先		患者数	構成比
院外	自宅(訪問診療、訪問看護等 なし)	2.56	22.1%
	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.66	5.7%
	有料老人ホーム等*	0.31	2.7%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.42	3.6%
	介護老人保健施設	0.97	8.4%
	他の医療機関の一般病床	0.99	8.6%
	他の医療機関の医療療養病床	0.11	1.0%
	他の医療機関の介護療養病床	0.04	0.4%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.00	0.0%
	他の医療機関のその他の病床	0.22	1.9%
(再掲)院外のうち同一法人内の場合	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.13	1.1%
	有料老人ホーム等*	0.07	0.6%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.09	0.8%
	介護老人保健施設	0.42	3.6%
	他の医療機関の一般病床	0.13	1.1%
	他の医療機関の医療療養病床	0.02	0.2%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.00	0.0%
	他の医療機関のその他の病床	0.00	0.0%
院内	自院の一般病床	1.39	12.0%
	自院の回復期リハビリテーション病棟	0.11	1.0%
	自院の亜急性期病床	0.00	0.0%
	自院の特殊疾患病棟(入院医療管理料)	0.00	0.0%
	自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	0.11	1.0%
	自院の介護療養病床	0.37	3.2%
	自院のその他の病床	0.04	0.4%
不明		0.04	0.4%
死亡退院		2.36	20.4%
合計		11.58	100.0%

※有料老人ホーム等:グループホーム、ケアハウス(軽費老人ホーム)を含む

■一般病床併設なし 医療療養病棟の退院先別100床当り退院(転棟)患者数 [図表12]
(再掲) (n=66、単位:人)

退院(転棟)先		患者数	構成比
院外	自宅(訪問診療、訪問看護等 なし)	2.52	15.6%
	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	1.49	9.2%
	有料老人ホーム等*	0.38	2.4%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.70	4.3%
	介護老人保健施設	1.31	8.1%
	他の医療機関の一般病床	2.55	15.9%
	他の医療機関の医療療養病床	0.28	1.7%
	他の医療機関の介護療養病床	0.02	0.1%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.03	0.2%
	他の医療機関のその他の病床	0.03	0.2%
(再掲)院外のうち同一法人内の場合	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.26	1.6%
	有料老人ホーム等*	0.05	0.3%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.03	0.2%
	介護老人保健施設	0.84	5.2%
	他の医療機関の一般病床	0.80	5.0%
	他の医療機関の医療療養病床	0.05	0.3%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.02	0.1%
	他の医療機関のその他の病床	0.00	0.0%
院内	自院の一般病床		
	自院の回復期リハビリテーション病棟		
	自院の亜急性期病床		
	自院の特殊疾患病棟(入院医療管理料)		
	自院の障害者施設等入院基本料算定病棟		
	自院の介護療養病床	0.84	5.2%
	自院のその他の病床	0.05	0.3%
不明		0.05	0.3%
死亡退院		3.78	23.5%
合計		16.11	100.0%

※有料老人ホーム等:グループホーム、ケアハウス(経費老人ホーム)を含む

■医療療養病棟の入院時点の状態別100床当り新入院(転棟)患者数及び構成比 [図表13]
(n=130、単位:人、%)

	平成20年2月中			平成21年2月中		
	入院基本料区分	新入院患者	構成比%	入院基本料区分	新入院患者	構成比%
全体(n=130)	入院基本料A	4.1	25.4%	入院基本料A(褥瘡評価実施加算あり)	1.8	14.3%
				入院基本料A(褥瘡評価実施加算なし)	1.4	11.1%
	入院基本料B	4.6	28.4%	入院基本料B(褥瘡評価実施加算あり)	1.8	14.2%
				入院基本料B(褥瘡評価実施加算なし)	1.9	15.0%
	入院基本料C(認知機能障害加算あり)	0.3	2.1%	入院基本料C	1.7	13.3%
	入院基本料C(認知機能障害加算なし)	1.7	10.6%			
	入院基本料D	1.2	7.5%	入院基本料D(褥瘡評価実施加算あり)	0.6	4.7%
				入院基本料D(褥瘡評価実施加算なし)	0.5	3.8%
	入院基本料E	4.2	25.9%	入院基本料E	3.0	23.5%
	特別入院基本料	0.0	0.0%	特別入院基本料	0.0	0.1%
	合計	16.2	100.0%	合計	12.6	100.0%
(再掲)医療区分別(n=130)	医療区分3	4.1	25.4%	医療区分3	3.2	25.4%
	医療区分2	6.6	41.1%	医療区分2	5.3	42.5%
	医療区分1	5.4	33.5%	医療区分1	4.0	32.0%
	合計	16.2	100.0%	合計	12.6	100.0%

※医療区分と入院基本料A～Eの関係

医療区分	入院基本料
医療区分3	入院基本料A
医療区分2	入院基本料B、C
医療区分1	入院基本料D、E

■医療療養病棟の退院直前の状態別100床当り退院(転棟)患者数及び構成比 [図表14]
(n=130、単位:人、%)

	平成20年2月中			平成21年2月中		
	入院基本料区分	退院患者	構成比%	入院基本料区分	退院患者	構成比%
全体(n=130)	入院基本料A	4.7	32.1%	入院基本料A(褥瘡評価実施加算あり)	2.6	22.2%
				入院基本料A(褥瘡評価実施加算なし)	1.3	11.1%
	入院基本料B	2.9	19.7%	入院基本料B(褥瘡評価実施加算あり)	1.1	9.4%
				入院基本料B(褥瘡評価実施加算なし)	1.3	11.1%
	入院基本料C(認知機能障害加算あり)	0.2	1.7%	入院基本料C	1.2	10.3%
	入院基本料C(認知機能障害加算なし)	1.4	9.4%			
	入院基本料D	1.1	7.3%	入院基本料D(褥瘡評価実施加算あり)	0.6	5.1%
				入院基本料D(褥瘡評価実施加算なし)	0.3	2.6%
	入院基本料E	4.4	29.8%	入院基本料E	3.3	28.2%
	特別入院基本料	0.0	0.0%	特別入院基本料	0.0	0.0%
	合計	14.8	100.0%	合計	11.7	100.0%
(再掲)医療区分別(n=130)	医療区分3	4.7	32.1%	医療区分3	3.9	33.3%
	医療区分2	4.5	30.7%	医療区分2	3.5	29.9%
	医療区分1	5.5	37.2%	医療区分1	4.3	36.8%
	合計	14.8	100.0%	合計	11.7	100.0%

※医療区分と入院基本料A～Eの関係

医療区分	入院基本料
医療区分3	入院基本料A
医療区分2	入院基本料B、C
医療区分1	入院基本料D、E

■医療療養病棟の入院経路別100床当り新入院(転棟)患者数 [図表15]
(n=46、単位:人、%)

	平成21年2月中	
	入院患者	構成比%
他院よりの紹介	6.2	50.3%
自院外来からの入院	3.4	27.4%
予定入院	2.0	16.6%
緊急入院	0.6	4.6%
救急車による搬送	0.1	1.1%
計	12.2	100.0%

■医療療養病棟の100床当り入院基本料等算定患者数 [図表16]
(n=103、単位:人)

項目	患者数
在宅患者緊急入院診療加算1	0.00
在宅患者緊急入院診療加算2	0.00
乳幼児加算・幼児加算	0.07
HIV感染者療養環境特別加算	0.00
重症皮膚潰瘍管理加算	4.89
褥瘡患者管理加算	5.51
退院調整加算1(退院支援計画作成加算)	1.25
退院調整加算2(退院加算)	0.88
後期高齢者外来患者緊急入院診療加算	0.36

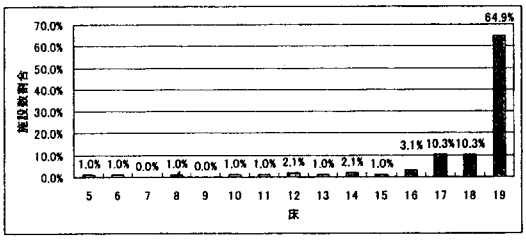
平成 20 年度

慢性期入院医療の包括評価に関する調査　集計結果

施設特性調査
（診療所）

1 基本情報

■病床数別施設数割合（n＝97）［図表1］



■在宅療養支援施設数（n＝94）［図表2］

項目	施設数
在宅療養支援施設である	49
在宅療養支援施設でない	45

■入院基本料等加算施設数（複数回答）［図表3］

項目	施設数
診療録管理体制加算	2
診療所療養病床療養環境加算 1	40
診療所療養病床療養環境加算 2	45
栄養管理実施加算	16
医療安全対策加算	6

2 病床数と入院患者数

■医療療養病床の病床数が増減した診療所における病床数の変化［図表4］
（平成 21 年3月と平成 20 年3月との比較）

	医療療養病床の病床数が減少した診療所		医療療養病床の病床数が増加した診療所	
	診療所数	延べ病床数	診療所数	延べ病床数
①医療療養病床	2	12	1	6
②上記のうち 病床数全体純増減分	0	0	0	0
③差し引き（①－②） 病床数全体の増減を除いた医療療養病床の増減数	－	12	－	6
内訳）有床診療所入院基本料算定病床	2	12	1	1
内訳）介護療養病床	0	0	1	6

3 医療療養病床における職員配置の変化（20年2月→21年2月）

■医療療養病床における職員1人当たり患者数の変化（20年2月→21年2月）（n＝13）［図表5］

		20 年 2 月	21 年 2 月
看護職員1人当たりの患者数	平均値	8.8	8.1
	中央値	9.6	8.5
	最小値	2.0	2.3
	最大値	16.0	14.9
	標準偏差	3.8	3.4
看護補助者1人当たりの患者数	平均値	17.8	14.9
	中央値	17.7	14.3
	最小値	7.8	9.0
	最大値	26.7	24.9
	標準偏差	5.9	5.0

※有床診療所療養病床基本料のみを算定している診療所（13 施設）の集計。

※算出式
看護職員1人当たりの患者数　＝1日平均患者数／{看護師と准看護師の月延べ勤務時間数(日勤＋夜勤)／(月の日数×24時間)}
看護補助者1人当たりの患者数＝1日平均患者数／{看護補助者の月延べ勤務時間数(日勤＋夜勤)／(月の日数×24時間)}

4 有床診療所療養病床基本料を算定している病床の入退院患者の構成の変化

■有床診療所療養病床基本料を算定している病床の入院元別100床当り新入院(転床)患者数
（平成21年2月中）(n＝86、単位：人）［図表6］

入院(転床)元		患者数	構成比
院外	自宅(訪問診療、訪問看護等　なし)	10.48	31.8%
	自宅(訪問診療、訪問看護等　あり)	1.38	4.2%
	有料老人ホーム等※	0.58	1.7%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.23	0.7%
	介護老人保健施設	0.81	2.4%
	他の医療機関の一般病床	5.88	17.8%
	他の医療機関の医療療養病床	0.69	2.1%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟	0.12	0.3%
	他の医療機関のその他の病床	0.92	2.8%
(再掲) 院外のうち同一法人内の場合	自宅(訪問診療、訪問看護等　あり)	0.00	0.0%
	有料老人ホーム等※	0.23	0.7%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.12	0.3%
	介護老人保健施設	0.69	2.1%
	他の医療機関の一般病床	0.12	0.3%
	他の医療機関の医療療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟	0.00	0.0%
	他の医療機関のその他の病床	0.46	1.4%
院内	自院の一般病床	9.56	29.0%
	自院の介護療養病床	0.46	1.4%
不明		1.84	5.6%
合計		32.95	100.0%

※グループホーム、ケアハウス（軽費老人ホーム）を含む

■有床診療所療養病床基本料を算定している病床の退院先別100床当り退院(転床)患者数
(平成21年2月中)(n=86、単位:人) [図表7]

退院(転床)元		患者数	構成比
院外	自宅(訪問診療、訪問看護等 なし)	10.25	42.6%
	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	1.84	7.7%
	有料老人ホーム等※	0.69	2.9%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.46	1.9%
	介護老人保健施設	1.50	6.2%
	他の医療機関の一般病床	1.84	7.7%
	他の医療機関の医療療養病床	0.12	0.5%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.00	0.0%
	他の医療機関のその他の病床	0.12	0.5%
(再掲)院外のうち同一法人内の場合	自宅(訪問診療、訪問看護等 あり)	0.46	1.9%
	有料老人ホーム等※	0.00	0.0%
	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0.00	0.0%
	介護老人保健施設	0.58	2.4%
	他の医療機関の一般病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の医療療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の介護療養病床	0.00	0.0%
	他の医療機関の回復期リハビリテーション病棟	0.00	0.0%
	他の医療機関のその他の病床	0.00	0.0%
院内	自院の一般病床	2.76	11.5%
	自院の介護療養病床	0.12	0.5%
不明		0.00	0.0%
死亡退院		3.34	13.9%
合計		24.08	100.0%

※グループホーム、ケアハウス(軽費老人ホーム)を含む

■有床診療所療養病床基本料を算定している病床の入院時点の状態別100床当り新入院(転床)患者数及び構成比 [図表8]

(n=39、単位:人、%)

	平成20年2月中			平成21年2月中		
	入院基本料区分	患者数	構成比%	入院基本料区分	患者数	構成比%
全体(n=39)	入院基本料A	2.3	8.0%	入院基本料A(褥瘡評価実施加算あり)	0.3	1.2%
				入院基本料A(褥瘡評価実施加算なし)	1.9	8.1%
	入院基本料B	6.3	21.2%	入院基本料B(褥瘡評価実施加算あり)	1.1	4.7%
				入院基本料B(褥瘡評価実施加算なし)	3.7	16.3%
	入院基本料C(認知機能障害加算あり)	0.5	1.8%	入院基本料C	2.4	10.5%
	入院基本料C(認知機能障害加算なし)	6.3	21.2%			
	入院基本料D	1.8	6.2%	入院基本料D(褥瘡評価実施加算あり)	0.8	3.5%
				入院基本料D(褥瘡評価実施加算なし)	0.5	2.3%
	入院基本料E	12.2	41.6%	入院基本料E	12.2	53.5%
	特別入院基本料	0.0	0.0%	特別入院基本料	0.0	0.0%
	合計	29.4	100.0%	合計	22.8	100.0%
(再掲)医療区分別(n=39)	医療区分3	2.3	8.0%	医療区分3	2.1	9.3%
	医療区分2	13.0	44.2%	医療区分2	7.1	31.4%
	医療区分1	14.1	47.8%	医療区分1	13.5	59.3%
	合計	29.4	100.0%	合計	22.8	100.0%

※医療区分と入院基本料A～Eの関係

医療区分	入院基本料
医療区分3	入院基本料A
医療区分2	入院基本料B、C
医療区分1	入院基本料D、E

■有床診療所療養病床基本料を算定している病床の退院直前の状態別100床当り退院(転床)患者数及び構成比 [図表9]

(n=39、単位:人、%)

	平成20年2月中			平成21年2月中		
	入院基本料区分	患者数	構成比%	入院基本料区分	患者数	構成比%
全体(n=39)	入院基本料A	2.1	8.7%	入院基本料A(褥瘡評価実施加算あり)	0.8	4.2%
				入院基本料A(褥瘡評価実施加算なし)	0.8	4.2%
	入院基本料B	3.9	16.3%	入院基本料B(褥瘡評価実施加算あり)	1.3	6.9%
				入院基本料B(褥瘡評価実施加算なし)	2.9	15.3%
	入院基本料C(認知機能障害加算あり)	0.3	1.1%	入院基本料C	1.1	5.6%
	入院基本料C(認知機能障害加算なし)	4.9	20.7%			
	入院基本料D	1.8	7.6%	入院基本料D(褥瘡評価実施加算あり)	0.5	2.8%
				入院基本料D(褥瘡評価実施加算なし)	1.1	5.6%
	入院基本料E	10.9	45.7%	入院基本料E	10.6	55.6%
	特別入院基本料	0.0	0.0%	特別入院基本料	0.0	0.0%
	合計	24.0	100.0%	合計	19.0	100.0%
(再掲)医療区分別(n=39)	医療区分3	2.1	8.7%	医療区分3	1.6	8.3%
	医療区分2	9.1	38.0%	医療区分2	5.3	27.8%
	医療区分1	12.8	53.3%	医療区分1	12.2	63.9%
	合計	24.0	100.0%	合計	19.0	100.0%

※医療区分と入院基本料A～Eの関係

医療区分	入院基本料
医療区分3	入院基本料A
医療区分2	入院基本料B、C
医療区分1	入院基本料D、E

■医療療養病床の入院経路別100床当り新入院(転床)患者数(n=41、単位:人、%) [図表10]

	平成21年2月中	
	入院患者	構成比%
他院よりの紹介	7.06	31.6%
自院外来からの入院	12.53	56.1%
予定入院	2.05	9.2%
緊急入院	0.46	2.0%
救急車による搬送	0.23	1.0%
計	22.32	100.0%

■医療療養病床の100床当り入院基本料等加算算定患者数(n=62、単位:人) [図表11]

項目	患者数
在宅患者緊急入院診療加算	0.00
乳幼児加算・幼児加算	0.33
HIV感染者療養環境特別加算	0.81
重症皮膚潰瘍管理加算	0.81
褥瘡患者管理加算	3.58
退院調整加算1(退院支援計画作成加算)	3.41
後期高齢者外来患者緊急入院診療加算	0.00

平成 20 年度

慢性期入院医療の包括評価に関する調査　集計結果

患者特性調査
（病院）

【全病院】

平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査
《患者特性調査（病院）集計結果（全病院比較）》

平成 20 年度調査集計対象：平成 20 年度調査対象病院（136 病院）で療養病棟入院基本料を算定している患者

平成 18 年度調査集計対象：平成 18 年度調査対象病院（全 85 病院）の療養病棟入院基本料２を算定している患者

（注）本集計における「医療区分」は、患者調査票の回答に基づくものであるため診療報酬上の医療区分と一致しない場合がある。

1　医療区分・ADL区分の状況

■医療区分・ADL 区分［図表1］

	平成20年度調査				平成18年度調査			
	医療区分1 (n=2,453)	医療区分2 (n=3,826)	医療区分3 (n=1,550)	合　計 (n=7,829)	医療区分1 (n=1,805)	医療区分2 (n=2,726)	医療区分3 (n=1,066)	回答計 (n=5,597)
ADL区分3	10.3%	26.6%	15.0%	51.8%	10.4%	27.9%	15.3%	53.7%
ADL区分2	9.3%	13.3%	3.3%	25.8%	11.2%	12.8%	2.6%	26.7%
ADL区分1	11.8%	9.0%	1.5%	22.4%	10.6%	7.9%	1.1%	19.6%
全　体	31.3%	48.9%	19.8%	100.0%	32.2%	48.7%	19.0%	100.0%
無回答(n)	(45)	(39)	(13)	(97)	(5)	(6)	(0)	(11)

【共通病院】

平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査
《患者特性調査（病院）集計結果（共通病院比較）》

集計対象：平成 18 年度調査と平成 20 年度調査の共通病院（24 病院）における療養病棟入院基本料を算定している患者

（注）本集計における「医療区分」は、患者調査票の回答に基づくものであるため診療報酬上の医療区分と一致しない場合がある。

1　医療区分・ADL区分の状況

■医療区分・ADL 区分［図表2］

	平成20年度調査				平成18年度調査			
	医療区分1 (n=492)	医療区分2 (n=960)	医療区分3 (n=477)	合　計 (n=1,929)	医療区分1 (n=770)	医療区分2 (n=1,240)	医療区分3 (n=532)	回答計 (n=2,542)
ADL区分3	9.7%	28.1%	19.0%	56.9%	10.9%	29.0%	17.0%	56.9%
ADL区分2	7.4%	13.8%	4.0%	25.2%	10.0%	13.0%	2.8%	25.7%
ADL区分1	8.3%	7.8%	1.7%	17.9%	9.4%	6.7%	1.2%	17.4%
全　体	25.5%	49.8%	24.7%	100.0%	30.3%	48.8%	20.9%	100.0%
無回答(n)	(4)	(1)	(2)	(7)	(1)	(3)	(0)	(4)

【全病院】

2　医療区分採用項目の該当状況

■医療区分採用項目［図表3］

	平成20年度調査				平成18年度調査			
	医療区分1 (n=2,498)	医療区分2 (n=3,865)	医療区分3 (n=1,563)	合　計 (n=7,926)	医療区分1 (n=1,810)	医療区分2 (n=2,732)	医療区分3 (n=1,066)	回答計 (n=5,608)
1. 24時間持続して点滴を実施	0.0%	0.0%	41.1%	8.1%	0.0%	0.0%	49.3%	9.4%
2. 尿路感染症に対する治療	0.0%	12.2%	13.8%	8.6%	0.0%	10.7%	11.0%	7.3%
3. 傷病等によりリハビリテーションを必要とする状態	0.0%	3.6%	2.0%	2.1%	0.0%	3.8%	2.0%	2.2%
4. 脱水に対する治療	0.0%	6.4%	13.8%	5.9%	0.0%	6.8%	12.1%	5.6%
（4. 脱水に対する治療[×発熱]）	0.0%	1.7%	8.7%	2.5%	0.0%	2.0%	6.7%	2.2%
（4. 脱水に対する治療[×発熱38度以上]）	0.0%	0.6%	5.2%	1.3%				
5. 消化管等の体内から出血が反復継続している状態	0.0%	0.7%	2.5%	0.8%	0.0%	1.1%	2.9%	1.1%
6. 頻回の嘔吐に対する治療	0.0%	0.4%	1.4%	0.5%	0.0%	0.7%	1.4%	0.6%
（6. 頻回の嘔吐に対する治療[×発熱]）	0.0%	0.1%	0.6%	0.2%	0.0%	0.3%	0.9%	0.3%
（6. 頻回の嘔吐に対する治療[×発熱38度以上]）	0.0%	0.0%	0.6%	0.1%				
7. せん妄に対する治療	0.0%	2.9%	2.3%	1.9%	0.0%	2.2%	2.5%	1.5%
8. 経鼻胃管・胃瘻等の経腸栄養が行われ、発熱又は嘔吐を伴う状態	0.0%	6.9%	19.9%	7.3%	0.0%	10.2%	22.7%	9.3%
9. 頻回の血液検査を実施（1日3回以上）	0.0%	13.3%	10.2%	8.5%	0.0%	7.9%	6.0%	5.0%
10. スモンに罹患	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.1%
12. 医師及び看護師により、常時、監視・管理を実施	0.0%	0.0%	5.4%	1.1%	0.0%	0.0%	5.9%	1.1%
13. 中心静脈栄養を実施	0.0%	0.0%	25.6%	5.0%	0.0%	0.0%	34.1%	6.5%
14. 人工呼吸器を使用	0.0%	0.0%	6.0%	1.2%	0.0%	0.0%	5.8%	1.1%
15. ドレーン法・胸腹腔の洗浄	0.0%	0.0%	1.3%	0.3%	0.0%	0.0%	1.0%	0.2%
16. 気管切開・気管内挿管の実施が行われ、発熱を伴う状態	0.0%	0.0%	11.1%	2.2%	0.0%	0.0%	14.5%	2.8%
（16. 気管切開・気管内挿管の実施[×発熱38度以上]）	0.0%	0.0%	5.4%	1.1%				
17. 酸素療法の実施	0.0%	0.0%	52.8%	10.4%	0.0%	0.0%	44.6%	8.5%
18. 感染隔離室での管理を実施	0.0%	0.0%	8.3%	1.6%	0.0%	0.0%	7.5%	1.4%
19・21筋ジストロフィー症・筋萎縮性側索硬化症に罹患	0.0%	2.8%	2.0%	1.7%	0.0%	3.8%	3.3%	2.5%
20. 多発性硬化症に罹患	0.0%	0.5%	0.1%	0.2%	0.0%	0.5%	0.3%	0.3%
22. パーキンソン病関連疾患に罹患	0.0%	13.7%	6.5%	7.9%	0.0%	15.6%	7.2%	9.0%
23. その他の難病に罹患	0.0%	1.3%	0.7%	0.8%	0.0%	3.2%	1.1%	1.8%
24. 脊髄損傷（頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに認められる）	0.0%	0.9%	0.6%	0.6%	0.0%	1.5%	0.3%	0.8%
25. 慢性閉塞性肺疾患（ヒュー・ジョーンズの分類がV度以上）	0.0%	1.5%	6.1%	1.9%	0.0%	1.7%	5.9%	1.9%
26. 透析を実施	0.0%	5.5%	1.0%	2.9%	0.0%	3.8%	0.3%	1.9%
29. 悪性腫瘍（疼痛コントロールが必要な場合に限る）	0.0%	1.0%	1.7%	0.8%	0.0%	1.0%	1.7%	0.8%
30. 肺炎に対する治療	0.0%	10.7%	22.6%	9.7%	0.0%	9.6%	24.0%	9.2%
31. 褥瘡に対する治療（2度以上または2箇所以上）	0.0%	4.9%	6.2%	3.6%	0.0%	5.2%	7.6%	4.0%
32. 末梢神経障害による下肢末端の開放創に対する治療	0.0%	1.8%	1.2%	1.1%	0.0%	1.3%	1.1%	0.9%
33. うつ症状に対する治療	0.0%	13.6%	4.7%	7.6%	0.0%	13.2%	4.0%	7.2%
34. 他者に対する暴行が毎日認められる状態	0.0%	2.7%	1.1%	1.5%	0.0%	3.1%	1.1%	1.7%
35. 1日8回以上の喀痰吸引を実施	0.0%	28.0%	48.4%	23.2%	0.0%	28.6%	47.2%	22.9%
36. 気管切開・気管内挿管の実施（発熱を伴う場合を除く）	0.0%	10.4%	21.2%	9.2%	0.0%	10.4%	23.7%	9.6%
37. 創傷、皮膚潰瘍、下腿、足部の蜂巣炎、膿等の感染症に対する治療	0.0%	17.9%	20.0%	12.7%	0.0%	21.0%	20.4%	14.1%

2 医療区分採用項目の該当状況

■医療区分採用項目 [図表4]

	平成20年度調査 医療区分1 (n=496)	医療区分2 (n=961)	医療区分3 (n=479)	合 計 (n=1,936)		平成18年度調査 医療区分1 (n=771)	医療区分2 (n=1,243)	医療区分3 (n=532)	回答計 (n=2,546)
1. 24時間神経して点滴を実施	0.0%	0.0%	42.0%	10.4%		0.0%	0.0%	50.2%	10.5%
2. 尿路感染症に対する治療	**0.0%**	**15.6%**	**20.9%**	**12.9%**	↑	0.0%	11.8%	11.5%	8.2%
3. 傷病等によりリハビリテーションを必要とする状態	0.0%	5.1%	5.4%	3.9%		0.0%	3.8%	3.2%	2.5%
4. 脱水に対する治療	0.0%	9.9%	20.9%	10.1%		0.0%	10.0%	15.0%	8.0%
(4. 脱水に対する治療[×発熱])	0.0%	2.7%	15.7%	5.2%		0.0%	3.5%	9.0%	3.6%
(4. 脱水に対する治療[×発熱38度以上])	0.0%	1.0%	8.8%	2.7%					
5. 消化管等の体内から出血が反復継続している状態	0.0%	1.1%	1.5%	0.9%		0.0%	1.0%	2.6%	1.1%
6. 頻回の嘔吐に対する治療	0.0%	0.6%	1.3%	0.6%		0.0%	0.6%	1.5%	0.6%
(6. 頻回の嘔吐に対する治療[×発熱])	0.0%	0.2%	1.0%	0.4%		0.0%	0.2%	0.9%	0.3%
(6. 頻回の嘔吐に対する治療[×発熱38度以上])	0.0%	0.0%	1.0%	0.3%					
7. せん妄に対する治療	0.0%	1.9%	2.5%	1.5%		0.0%	2.3%	1.9%	1.5%
8. 経鼻胃管・胃瘻等の経腸栄養が行われ、発熱又は嘔吐を伴う状態	**0.0%**	**12.1%**	**34.0%**	**14.4%**	↑	0.0%	11.3%	26.9%	11.1%
9. 頻回の血糖検査を実施(1日3回以上)	**0.0%**	**17.4%**	**16.1%**	**12.6%**	↑	0.0%	7.7%	7.5%	5.3%
10. スモンに罹患	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%		0.0%	0.0%	0.8%	0.2%
12. 医師及び看護師により、常時、監視・管理を実施	0.0%	0.0%	4.0%	1.0%		0.0%	0.0%	6.2%	1.3%
13. 中心静脈栄養を実施	0.0%	0.0%	27.6%	6.8%		0.0%	0.0%	32.0%	6.7%
14. 人工呼吸器を使用	0.0%	0.0%	8.8%	2.2%		0.0%	0.0%	8.5%	1.8%
15. ドレーン法・胸腹腔の洗浄	0.0%	0.0%	1.7%	0.4%		0.0%	0.0%	0.6%	0.1%
16. 気管切開・気管内挿管の実施が行われ、発熱を伴う状態	0.0%	0.0%	20.9%	5.2%		0.0%	0.0%	16.0%	3.3%
(16. 気管切開・気管内挿管の実施[×発熱38度以上])	0.0%	0.0%	9.2%	2.3%					
17. 酸素療法の実施	0.0%	0.0%	48.6%	12.0%		0.0%	0.0%	46.4%	9.7%
18. 感染隔離室での管理を実施	0.0%	0.0%	9.8%	2.4%		0.0%	0.0%	6.8%	1.4%
19-21筋ジストロフィー症・筋萎縮性側索硬化症に罹患	0.0%	2.9%	1.0%	1.7%		0.0%	3.6%	3.6%	2.5%
20. 多発性硬化症に罹患	0.0%	0.9%	0.0%	0.5%		0.0%	0.6%	0.2%	0.3%
22. パーキンソン病関連疾患に罹患	0.0%	14.8%	6.1%	8.8%		0.0%	16.7%	8.3%	9.9%
23. その他の難病に罹患	0.0%	2.4%	0.6%	1.3%		0.0%	4.9%	1.3%	2.7%
24. 脊髄損傷(頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに認められる)	0.0%	1.6%	0.6%	0.9%		0.0%	2.2%	0.2%	1.1%
25. 慢性閉塞性肺疾患(ヒュー・ジョーンズの分類がV度以上)	0.0%	1.0%	7.1%	2.3%		0.0%	1.6%	4.5%	1.7%
26. 透析を実施	0.0%	0.7%	0.2%	0.4%		0.0%	2.3%	0.0%	1.1%
29. 悪性腫瘍(疼痛コントロールが必要な場合に限る)	0.0%	2.0%	1.3%	1.3%		0.0%	0.8%	0.9%	0.6%
30. 肺炎に対する治療	0.0%	9.9%	20.5%	10.0%		0.0%	11.3%	21.6%	10.1%
31. 褥瘡に対する治療(2度以上または2箇所以上)	0.0%	2.8%	4.2%	2.4%		0.0%	4.1%	5.8%	3.2%
32. 末梢循環障害による下肢末端の開放創に対する治療	0.0%	1.1%	0.8%	0.8%		0.0%	0.9%	0.8%	0.6%
33. うつ症状に対する治療	0.0%	8.6%	4.2%	5.3%		0.0%	9.1%	3.4%	5.1%
34. 他者に対する暴行が毎日認められる状態	0.0%	2.8%	0.8%	1.6%		0.0%	2.2%	1.1%	1.3%
35. 1日8回以上の喀痰吸引を実施	0.0%	28.2%	55.1%	27.6%		0.0%	30.6%	51.5%	25.7%
36. 気管切開・気管内挿管の実施(発熱を伴う場合を除く)	0.0%	11.6%	31.9%	13.6%		0.0%	12.0%	26.9%	11.5%
37. 褥瘡、皮膚潰瘍、下肢、足部の蜂巣炎、膿等の感染症に対する治療	0.0%	19.5%	24.0%	15.6%		0.0%	17.6%	19.0%	12.6%

3 入退院の状況

■調査病棟に入院する前の状況 [図表5]

	平成20年度調査 医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
1. 自宅(家族等との同居も含む)	386	15.5%	417	10.8%	112	7.2%	915	11.5%
2. 有料老人ホーム等	43	1.7%	71	1.8%	24	1.5%	138	1.7%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	22	0.9%	55	1.4%	39	2.5%	116	1.5%
4. 介護老人保健施設	64	2.6%	141	3.6%	67	4.3%	272	3.4%
5. 他の医療機関	995	39.8%	1,746	45.2%	807	51.6%	3,548	44.8%
(再掲)他の医療機関の一般病床	922	36.9%	1,592	41.2%	759	48.6%	3,273	41.3%
(再掲)他の医療機関の療養病床	51	2.0%	116	3.0%	37	2.4%	204	2.6%
(再掲)他の医療機関のその他の病床(精神病床等)	22	0.9%	38	1.0%	11	0.7%	71	0.9%
6. 自院の他の病床	893	35.7%	1,308	33.8%	474	30.3%	2,675	33.7%
(再掲)自院の一般病床(転棟)	683	27.3%	923	23.9%	310	19.8%	1,916	24.2%
(再掲)自院のその他の病床(精神病床等)(転棟)	210	8.4%	385	10.0%	164	10.5%	759	9.6%
無回答	95	3.8%	127	3.3%	40	2.6%	262	3.3%
全 体	2,498	100.0%	3,865	100.0%	1,563	100.0%	7,926	100.0%

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査 医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
1. 自宅(家族等との同居も含む)	187	10.3%	243	8.9%	72	6.8%	502	9.0%
2. 有料老人ホーム等	13	0.7%	26	1.0%	10	0.9%	49	0.9%
グループホーム	3	0.2%	8	0.3%	5	0.5%	16	0.3%
有料老人ホーム	7	0.4%	13	0.5%	3	0.3%	23	0.4%
ケアハウス(軽費老人ホーム含む)	3	0.2%	5	0.2%	2	0.2%	10	0.2%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	17	0.9%	67	2.5%	32	3.0%	116	2.1%
4. 介護老人保健施設	78	4.3%	117	4.3%	65	6.1%	260	4.6%
5. 他の医療機関	869	48.0%	1,265	46.3%	446	41.8%	2,580	46.0%
(再掲)他の医療機関の一般病床	747	41.3%	1,120	41.0%	414	38.8%	2,281	40.7%
(再掲)他の医療機関の療養病床	106	5.9%	116	4.2%	28	2.6%	250	4.5%
(再掲)他の医療機関のその他の病床(精神病床等)	16	0.9%	29	1.1%	4	0.4%	49	0.9%
6. 自院の他の病床	628	34.7%	972	35.6%	419	39.3%	2,019	36.0%
(再掲)自院の一般病床(転棟)	421	23.3%	654	23.9%	270	25.3%	1,345	24.0%
(再掲)自院のその他の病床(精神病床等)(転棟)	207	11.4%	318	11.6%	149	14.0%	674	12.0%
7. わからない	7	0.4%	7	0.3%	7	0.7%	21	0.4%
無回答	11	0.6%	35	1.3%	15	1.4%	61	1.1%
全 体	1,810	100.0%	2,732	100.0%	1,066	100.0%	5,608	100.0%

3 入退院の状況

■調査病棟に入院する前の状況 [図表6]

	平成20年度調査 医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)	
1. 自宅(家族等との同居も含む)	29	5.8%	69	7.2%	32	6.7%	130	6.7%
2. 有料老人ホーム等	4	0.8%	8	0.8%	3	0.6%	15	0.8%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	4	0.8%	20	2.1%	8	1.7%	32	1.7%
4. 介護老人保健施設	22	4.4%	45	4.7%	16	3.3%	83	4.3%
5. 他の医療機関	**198**	**39.9%**	**402**	**41.8%**	**208**	**43.4%**	**808**	**41.7%**
(再掲)他の医療機関の一般病床	**181**	**36.5%**	**375**	**39.0%**	**192**	**40.1%**	**748**	**38.6%**
(再掲)他の医療機関の療養病床	14	2.8%	23	2.4%	14	2.9%	51	2.6%
(再掲)他の医療機関のその他の病床(精神病床等)	3	0.6%	4	0.4%	2	0.4%	9	0.5%
6. 自院の他の病床	**230**	**46.4%**	**413**	**43.0%**	**208**	**43.4%**	**851**	**44.0%**
(再掲)自院の一般病床(転棟)	**142**	**28.6%**	**234**	**24.3%**	**125**	**26.1%**	**501**	**25.9%**
(再掲)自院のその他の病床(精神病床等)(転棟)	88	17.7%	179	18.6%	83	17.3%	350	18.1%
無回答	9	1.8%	4	0.4%	4	0.8%	17	0.9%
全 体	496	100.0%	961	100.0%	479	100.0%	1,936	100.0%

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査 医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
1. 自宅(家族等との同居も含む)	54	7.0%	94	7.6%	34	6.4%	182	7.1%
2. 有料老人ホーム等	1	0.1%	10	0.8%	4	0.8%	15	0.6%
グループホーム	0	0.0%	2	0.2%	2	0.4%	4	0.2%
有料老人ホーム	0	0.0%	6	0.5%	1	0.2%	7	0.3%
ケアハウス(軽費老人ホーム含む)	1	0.1%	2	0.2%	1	0.2%	4	0.2%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	9	1.2%	41	3.3%	19	3.6%	69	2.7%
4. 介護老人保健施設	31	4.0%	53	4.3%	42	7.9%	126	4.9%
5. 他の医療機関	416	54.0%	672	54.1%	241	45.3%	1,329	52.2%
(再掲)他の医療機関の一般病床	377	48.9%	607	48.8%	225	42.3%	1,209	47.5%
(再掲)他の医療機関の療養病床	35	4.5%	53	4.3%	14	2.6%	102	4.0%
(再掲)他の医療機関のその他の病床(精神病床等)	4	0.5%	12	1.0%	2	0.4%	18	0.7%
6. 自院の他の病床	258	33.5%	369	29.7%	188	35.3%	815	32.0%
(再掲)自院の一般病床(転棟)	131	17.0%	190	15.3%	76	14.3%	397	15.6%
(再掲)自院のその他の病床(精神病床等)(転棟)	127	16.5%	179	14.4%	112	21.1%	418	16.4%
7. わからない	2	0.3%	2	0.2%	4	0.8%	8	0.3%
無回答	0	0.0%	2	0.2%	0	0.0%	2	0.1%
全 体	771	100.0%	1,243	100.0%	532	100.0%	2,546	100.0%

■調査病棟に入院した背景(複数回答) [図表7]

	平成20年度調査 医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)		
疾病の急性期状態が安定したため	**1,260**	**50.4%**	**2,295**	**59.4%**	**980**	**62.7%**	**4,535**	**57.2%**	↑
疾病の急性増悪	129	5.2%	302	7.8%	172	11.0%	603	7.6%	
継続的な高度の医療管理が必要	**101**	**4.0%**	**493**	**12.8%**	**430**	**27.5%**	**1,024**	**12.9%**	↑
継続的なリハビリが必要	1,036	41.5%	1,488	38.5%	515	32.9%	3,039	38.3%	
他施設の空きがない	284	11.4%	283	7.3%	32	2.0%	599	7.6%	
介護老人保健施設でも対応できるが、空きがないため	199	8.0%	191	4.9%	22	1.4%	412	5.2%	
介護老人福祉施設(特養)でも対応できるが、空きがないため	158	6.3%	172	4.5%	20	1.3%	350	4.4%	
在宅療養でも対応できるが、家族の受け入れ体制が整わないため	**491**	**19.7%**	**579**	**15.0%**	**118**	**7.5%**	**1,188**	**15.0%**	↓
本人、家族等が希望するため	**1,136**	**45.5%**	**1,704**	**44.1%**	**604**	**38.6%**	**3,444**	**43.5%**	↓
疾病の急性発症<新規>	153	6.1%	166	4.3%	69	4.4%	388	4.9%	
その他	187	7.5%	168	4.3%	42	2.7%	397	5.0%	

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査 医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
急性期状態が安定	1,161	64.1%	1,760	64.4%	649	60.9%	3,570	63.7%
疾病の急性増悪	121	6.7%	234	8.6%	196	18.4%	551	9.8%
継続的高度医療管理が必要	142	7.8%	508	18.6%	374	35.1%	1,024	18.3%
継続的なリハビリが必要	850	47.0%	1,081	39.6%	308	28.9%	2,239	39.9%
他施設の空きがない	203	11.2%	230	8.4%	42	3.9%	475	8.5%
自宅の体制が整わない	399	22.0%	524	19.2%	95	8.9%	1,018	18.2%
本人、家族等が希望	868	48.0%	1,362	49.9%	452	42.4%	2,682	47.8%

【共通病院】

■調査病棟に入院した背景（複数回答）［図表8］

	平成20年度調査								
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)		
疾病の急性期状態が安定したため	280	56.5%	600	62.4%	320	66.8%	1,200	62.0%	
疾病の急性増悪	19	3.8%	58	6.0%	33	6.9%	110	5.7%	↓
継続的な高度の医療管理が必要	23	4.6%	128	13.3%	172	35.9%	323	16.7%	↓
継続的なリハビリが必要	327	65.9%	595	61.9%	268	55.9%	1,190	61.5%	↑
他施設の空きがない	52	10.5%	48	5.0%	9	1.9%	109	5.6%	
介護老人保健施設でも対応できるが、空きがないため	35	7.1%	32	3.3%	6	1.3%	73	3.8%	
介護老人福祉施設(特養)でも対応できるが、空きがないため	25	5.0%	26	2.7%	6	1.3%	57	2.9%	
在宅療養でも対応できるが、家族の受け入れ体制が整わないため	86	17.3%	122	12.7%	23	4.8%	231	11.9%	↓
本人、家族等が希望するため	213	42.9%	390	40.6%	149	31.1%	752	38.8%	↓
疾病の急性発症＜新規＞	29	5.8%	51	5.3%	18	3.8%	98	5.1%	
その他	8	1.6%	23	2.4%	8	1.7%	39	2.0%	

（注）平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
急性期状態が安定	492	63.8%	761	61.2%	289	54.3%	1,542	60.6%
疾病の急性増悪	39	5.1%	122	9.8%	113	21.2%	274	10.8%
継続的高度医療管理が必要	67	8.7%	260	20.9%	188	35.3%	515	20.2%
継続的なリハビリが必要	435	56.4%	607	48.8%	218	41.0%	1,260	49.5%
他施設の空きがない	79	10.2%	67	5.4%	18	3.4%	164	6.4%
自宅の体制が整わない	154	20.0%	187	15.0%	44	8.3%	385	15.1%
本人、家族等が希望	321	41.6%	563	45.3%	190	35.7%	1,074	42.2%

【全病院】

■退院の見通し［図表9］

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
治癒または軽快して30日以内に退院できる見通し	299	12.0%	175	4.5%	20	1.3%	494	6.2%
治癒または軽快して90日以内に退院できる見通し	194	7.8%	150	3.9%	28	1.8%	372	4.7%
治癒または軽快して90日以内に退院できる見通しはないが、今後受け皿が整備されれば退院できる	789	31.6%	1,052	27.2%	209	13.4%	2,050	25.9%
治癒または軽快する見込みはなく、転院・転棟・死亡する見通し	232	9.3%	589	15.2%	324	20.7%	1,145	14.4%
退院(転院・転棟含む)の見通しはない	852	34.1%	1,827	47.3%	953	61.0%	3,632	45.8%
無回答	132	5.3%	72	1.9%	29	1.9%	233	2.9%
全 体	2,498	100.0%	3,865	100.0%	1,563	100.0%	7,926	100.0%

※平成20年度と平成18年度では項目の表現が変わっているため、数値比較無し

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
90日以内に退院できる見通し	283	15.6%	243	8.9%	30	2.8%	556	9.9%
90日以内に退院できる見通しはないが、今後受け皿が整備されれば退院できる	673	37.2%	803	29.4%	164	15.4%	1,640	29.2%
悪化して転院・転棟・死亡する見通し	43	2.4%	69	2.5%	139	13.0%	251	4.5%
退院(転院・転棟)の見通しはない	808	44.6%	1,614	59.1%	731	68.6%	3,153	56.2%
無回答	3	0.2%	3	0.1%	2	0.2%	8	0.1%
全 体	1,810	100.0%	2,732	100.0%	1,066	100.0%	5,608	100.0%

【共通病院】

■退院の見通し［図表10］

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)	
治癒または軽快して30日以内に退院できる見通し	57	11.5%	56	5.8%	7	1.5%	120	6.2%
治癒または軽快して90日以内に退院できる見通し	32	6.5%	40	4.2%	14	2.9%	86	4.4%
治癒または軽快して90日以内に退院できる見通しはないが、今後受け皿が整備されれば退院できる	175	35.3%	278	28.9%	85	17.7%	538	27.8%
治癒または軽快する見込みはなく、転院・転棟・死亡する見通し	65	13.1%	125	13.0%	77	16.1%	267	13.8%
退院(転院・転棟含む)の見通しはない	163	32.9%	456	47.5%	293	61.2%	912	47.1%
無回答	4	0.8%	6	0.6%	3	0.6%	13	0.7%
全 体	496	100.0%	961	100.0%	479	100.0%	1,936	100.0%

※平成20年度と平成18年度では項目の表現が変わっているため、数値比較無し

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
90日以内に退院できる見通し	97	12.6%	94	7.6%	14	2.6%	205	8.1%
90日以内に退院できる見通しはないが、今後受け皿が整備されれば退院できる	289	37.5%	330	26.5%	83	15.6%	702	27.6%
悪化して転院・転棟・死亡する見通し	15	1.9%	19	1.5%	51	9.6%	85	3.3%
退院(転院・転棟)の見通しはない	370	48.0%	800	64.4%	384	72.2%	1,554	61.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
全 体	771	100.0%	1,243	100.0%	532	100.0%	2,546	100.0%

【全病院】

■退院先の見通し（再掲）［図表11］
（退院の見通しで「90 日以内に退院できる見通し」の回答者）

	平成20年度調査								
	医療区分1 (n=493)		医療区分2 (n=325)		医療区分3 (n=48)		全 体 (n=866)		
1. 自宅（家族との同居を含む）	338	68.6%	183	56.3%	24	50.0%	545	62.9%	↑
2. 有料老人ホーム等	29	5.9%	18	5.5%	3	6.3%	50	5.8%	
3. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	28	5.7%	30	9.2%	5	10.4%	63	7.3%	↓
4. 介護老人保健施設	64	13.0%	61	18.8%	7	14.6%	132	15.2%	↓
5. 他の医療機関の一般病床	2	0.4%	3	0.9%	0	0.0%	5	0.6%	
6. 他の医療機関の療養病床	23	4.7%	23	7.1%	4	8.3%	50	5.8%	
7. 他の医療機関のその他の病床	1	0.2%	1	0.3%	0	0.0%	2	0.2%	
8. 自院の一般病床（10.の病棟を除く）	0	0.0%	0	0.0%	1	2.1%	1	0.1%	
9. 自院の介護療養病床＜新規＞	1	0.2%	2	0.6%	1	2.1%	4	0.5%	
10.自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
11.自院のその他の病床	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	
12.その他	4	0.8%	3	0.9%	0	0.0%	7	0.8%	
無回答	2	0.4%	1	0.3%	3	6.3%	6	0.7%	
全 体	493	100.0%	325	100.0%	48	100.0%	866	100.0%	

※「治癒または軽快して30日以内に退院できる見通し」と「治癒または軽快して90日以内に退院できる見通し」を合わせた患者数

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=283)		医療区分2 (n=243)		医療区分3 (n=30)		回答計 (n=556)	
1. 自宅（家族等との同居も含む）	131	46.3%	115	47.3%	7	23.3%	253	45.5%
2. 有料老人ホーム等	13	4.6%	15	6.2%	1	3.3%	29	5.2%
グループホーム	10	3.5%	2	0.8%	0	0.0%	12	2.2%
有料老人ホーム	2	0.7%	8	3.3%	0	0.0%	10	1.8%
ケアハウス（経費老人ホーム含む）	1	0.4%	5	2.1%	1	3.3%	7	1.3%
3. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	26	9.2%	46	18.9%	10	33.3%	82	14.7%
4. 介護老人保健施設	80	28.3%	35	14.4%	10	33.3%	125	22.5%
5. 他の医療機関の一般病床	11	3.9%	4	1.6%	0	0.0%	15	2.7%
6. 他の医療機関の療養病床	13	4.6%	18	7.4%	1	3.3%	32	5.8%
7. 他の医療機関のその他の病床	2	0.7%	5	2.1%	1	3.3%	8	1.4%
8. 自院の一般病床（10.の病棟を除く）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10.自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
11. 自院のその他の病床	3	1.1%	1	0.4%	0	0.0%	4	0.7%
12. その他	3	1.1%	2	0.8%	0	0.0%	5	0.9%
無回答	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	2	0.4%
全 体	283	100.0%	243	100.0%	30	100.0%	556	100.0%

【共通病院】

■退院先の見通し(再掲) [図表12]
(退院の見通しで「90日以内に退院できる見通し」の回答者)

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=89)		医療区分2 (n=96)		医療区分3 (n=21)		全 体 (n=206)	
1. 自宅(家族との同居を含む)	53	59.6%	42	43.8%	7	33.3%	102	49.5% ↑
2. 有料老人ホーム等	5	5.6%	4	4.2%	1	4.8%	10	4.9%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	7	7.9%	6	6.3%	4	19.0%	17	8.3% ↓
4. 介護老人保健施設	17	19.1%	34	35.4%	4	19.0%	55	26.7% ↑
5. 他の医療機関の一般病床	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6. 他の医療機関の療養病床	5	5.6%	8	8.3%	3	14.3%	16	7.8%
7. 他の医療機関のその他の病床	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8. 自院の一般病床(10.の病棟を除く)	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	1	0.5%
9. 自院の介護療養病床<新規>	0	0.0%	1	1.0%	1	4.8%	2	1.0%
10.自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
11.自院のその他の病床	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
12.その他	2	2.2%	1	1.0%	0	0.0%	3	1.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
全 体	89	100.0%	96	100.0%	21	100.0%	206	100.0%

※「治癒または軽快して30日以内に退院できる見通し」と「治癒または軽快して90日以内に退院できる見通し」を合わせた患者数

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=97)		医療区分2 (n=94)		医療区分3 (n=14)		回答計 (n=205)	
1. 自宅(家族等との同居も含む)	43	44.3%	38	40.4%	3	21.4%	84	41.0%
2. 有料老人ホーム等	3	3.1%	6	6.4%	0	0.0%	9	4.4%
グループホーム	3	3.1%	1	1.1%	0	0.0%	4	2.0%
有料老人ホーム	0	0.0%	4	4.3%	0	0.0%	4	2.0%
ケアハウス(軽費老人ホーム含む)	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	1	0.5%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	8	8.2%	25	26.6%	5	35.7%	38	18.5%
4. 介護老人保健施設	29	29.9%	14	14.9%	5	35.7%	48	23.4%
5. 他の医療機関の一般病床	3	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.5%
6. 他の医療機関の療養病床	7	7.2%	8	8.5%	1	7.1%	16	7.8%
7. 他の医療機関のその他の病床	2	2.1%	2	2.1%	0	0.0%	4	2.0%
8. 自院の一般病床(10.の病棟を除く)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10.自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	1	0.5%
11. 自院のその他の病床	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
12. その他	2	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
全 体	97	100.0%	94	100.0%	14	100.0%	205	100.0%

【全病院】

■退院先の見通し(再掲) [図表13]
(退院の見通しで「今後受け皿が整備されれば退院できる」の回答者)

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=789)		医療区分2 (n=1,052)		医療区分3 (n=209)		全 体 (n=2,050)	
1. 自宅(家族との同居を含む)	120	15.2%	154	14.6%	42	20.1%	316	15.4%
2. 有料老人ホーム等	38	4.8%	42	4.0%	4	1.9%	84	4.1%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	258	32.7%	296	28.1%	46	22.0%	600	29.3% ↑
4. 介護老人保健施設	257	32.6%	391	37.2%	88	42.1%	736	35.9%
5. 他の医療機関の一般病床	5	0.6%	6	0.6%	3	1.4%	14	0.7%
6. 他の医療機関の療養病床	35	4.4%	86	8.2%	14	6.7%	135	6.6% ↓
7. 他の医療機関のその他の病床	2	0.3%	3	0.3%	0	0.0%	5	0.2%
8. 自院の一般病床(10.の病棟を除く)	2	0.3%	3	0.3%	0	0.0%	5	0.2%
9. 自院の介護療養病床<新規>	35	4.4%	40	3.8%	5	2.4%	80	3.9%
10.自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	2	0.3%	2	0.2%	1	0.5%	5	0.2%
11.自院のその他の病床	5	0.6%	5	0.5%	0	0.0%	10	0.5%
12.その他	22	2.8%	15	1.4%	3	1.4%	40	2.0%
無回答	8	1.0%	9	0.9%	3	1.4%	20	1.0%
全 体	789	100.0%	1,052	100.0%	209	100.0%	2,050	100.0%

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=673)		医療区分2 (n=803)		医療区分3 (n=164)		回答計 (n=1,640)	
1. 自宅(家族等との同居も含む)	118	17.5%	106	13.2%	25	15.2%	249	15.2%
2. 有料老人ホーム等	45	6.7%	46	5.7%	4	2.4%	95	5.8%
グループホーム	18	2.7%	18	2.2%	0	0.0%	36	2.2%
有料老人ホーム	9	1.3%	16	2.0%	1	0.6%	26	1.6%
ケアハウス(軽費老人ホーム含む)	18	2.7%	12	1.5%	3	1.8%	33	2.0%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	193	28.7%	173	21.5%	18	11.0%	384	23.4%
4. 介護老人保健施設	204	30.3%	286	35.6%	55	33.5%	545	33.2%
5. 他の医療機関の一般病床	8	1.2%	11	1.4%	7	4.3%	26	1.6%
6. 他の医療機関の療養病床	60	8.9%	151	18.8%	50	30.5%	261	15.9%
7. 他の医療機関のその他の病床	6	0.9%	5	0.6%	1	0.6%	12	0.7%
8. 自院の一般病床(10.の病棟を除く)	0	0.0%	2	0.2%	2	1.2%	4	0.2%
10. 自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%
11. 自院のその他の病床	20	3.0%	15	1.9%	2	1.2%	37	2.3%
12. その他	16	2.4%	7	0.9%	0	0.0%	23	1.4%
無回答	3	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%
全 体	673	100.0%	803	100.0%	164	100.0%	1,640	100.0%

【共通病院】

■退院先の見通し(再掲) [図表14]
(退院の見通しで「今後受け皿が整備されれば退院できる」の回答者)

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=175)		医療区分2 (n=278)		医療区分3 (n=85)		全 体 (n=538)	
1. 自宅(家族との同居を含む)	18	10.3%	24	8.6%	12	14.1%	54	10.0% ↓
2. 有料老人ホーム等	2	1.1%	4	1.4%	0	0.0%	6	1.1% ↓
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	43	24.6%	56	20.1%	8	9.4%	107	19.9%
4. 介護老人保健施設	88	50.3%	168	60.4%	57	67.1%	313	58.2% ↑
5. 他の医療機関の一般病床	0	0.0%	0	0.0%	2	2.4%	2	0.4%
6. 他の医療機関の療養病床	11	6.3%	17	6.1%	2	2.4%	30	5.6% ↓
7. 他の医療機関のその他の病床	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8. 自院の一般病床(10.の病棟を除く)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9. 自院の介護療養病床<新規>	5	2.9%	5	1.8%	2	2.4%	12	2.2%
10.自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	1	0.6%	1	0.4%	0	0.0%	2	0.4%
11.自院のその他の病床	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
12.その他	4	2.3%	3	1.1%	0	0.0%	7	1.3%
無回答	2	1.1%	0	0.0%	2	2.4%	4	0.7%
全 体	175	100.0%	278	100.0%	85	100.0%	538	100.0%

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=289)		医療区分2 (n=330)		医療区分3 (n=83)		回答計 (n=702)	
1. 自宅(家族等との同居も含む)	56	19.4%	45	13.6%	12	14.5%	113	16.1%
2. 有料老人ホーム等	19	6.6%	21	6.4%	3	3.6%	43	6.1%
グループホーム	10	3.5%	6	1.8%	0	0.0%	16	2.3%
有料老人ホーム	2	0.7%	8	2.4%	1	1.2%	11	1.6%
ケアハウス(軽費老人ホーム含む)	7	2.4%	7	2.1%	2	2.4%	16	2.3%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	69	23.9%	60	18.2%	9	10.8%	138	19.7%
4. 介護老人保健施設	97	33.6%	128	38.8%	29	34.9%	254	36.2%
5. 他の医療機関の一般病床	3	1.0%	3	0.9%	3	3.6%	9	1.3%
6. 他の医療機関の療養病床	25	8.7%	64	19.4%	25	30.1%	114	16.2%
7. 他の医療機関のその他の病床	3	1.0%	1	0.3%	1	1.2%	5	0.7%
8. 自院の一般病床(10.の病棟を除く)	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.1%
10. 自院の障害者施設等入院基本料算定病棟	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.1%
11. 自院のその他の病床	10	3.5%	3	0.9%	1	1.2%	14	2.0%
12. その他	7	2.4%	3	0.9%	0	0.0%	10	1.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
全 体	289	100.0%	330	100.0%	83	100.0%	702	100.0%

【全病院】

4 その他の患者状態像(医療区分採用項目以外)

■疾患(複数回答) [図表15]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
糖尿病	302	12.1%	900	23.3%	259	16.6%	1,461	18.4% ↑
不整脈	90	3.6%	159	4.1%	58	3.7%	307	3.9%
急性心不全	15	0.6%	25	0.6%	31	2.0%	71	0.9%
慢性心不全	227	9.1%	444	11.5%	292	18.7%	963	12.1% ↑
高血圧症	604	24.2%	861	22.3%	271	17.3%	1,736	21.9%
虚血性心疾患	201	8.0%	321	8.3%	101	6.5%	623	7.9%
腎機能障	47	1.9%	74	1.9%	21	1.3%	142	1.8%
大腿骨頚部骨折	208	8.3%	220	5.7%	76	4.9%	504	6.4%
脊椎圧迫骨折	95	3.8%	114	2.9%	26	1.7%	235	3.0%
その他の骨折	99	4.0%	102	2.6%	26	1.7%	227	2.9%
関節リウマチ	67	2.7%	70	1.8%	26	1.7%	163	2.1%
アルツハイマー病	129	5.2%	239	6.2%	79	5.1%	447	5.6%
アルツハイマー病以外の認知症	327	13.1%	588	15.2%	236	15.1%	1,151	14.5% ↓
失語症	105	4.2%	217	5.6%	95	6.1%	417	5.3% ↓
脳性麻痺	71	2.8%	38	1.0%	6	0.4%	115	1.5%
脳梗塞	800	32.0%	1,344	34.8%	524	33.5%	2,668	33.7% ↓
脳出血	255	10.2%	451	11.7%	218	13.9%	924	11.7% ↓
片側不全麻痺	275	11.0%	513	13.3%	215	13.8%	1,003	12.7%
四肢麻痺	91	3.6%	332	8.6%	172	11.0%	595	7.5%
仮性球麻痺	77	3.1%	230	6.0%	135	8.6%	442	5.6% ↓
気管支喘息	76	3.0%	93	2.4%	68	4.4%	237	3.0%
腸閉塞(イレウス)	23	0.9%	47	1.2%	27	1.7%	97	1.2%
肝不全	7	0.3%	10	0.3%	10	0.6%	27	0.3%
がん(悪性腫瘍)	145	5.8%	255	6.6%	146	9.3%	546	6.9%
腎不全	66	2.6%	317	8.2%	96	6.1%	479	6.0%

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの
平成18年度と同じ疾患のみ記載している

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
糖尿病	230	12.7%	444	16.3%	132	12.4%	806	14.4%
不整脈	100	5.5%	147	5.4%	72	6.8%	319	5.7%
急性心不全	5	0.3%	6	0.2%	12	1.1%	23	0.4%
慢性心不全	147	8.1%	200	7.3%	146	13.7%	493	8.8%
高血圧症	407	22.5%	529	19.4%	175	16.4%	1,111	19.8%
虚血性心疾患	93	5.1%	140	5.1%	52	4.9%	285	5.1%
腎機能障	35	1.9%	81	3.0%	6	0.6%	122	2.2%
大腿骨頚部骨折	139	7.7%	163	6.0%	48	4.5%	350	6.2%
脊椎圧迫骨折	52	2.9%	80	2.9%	22	2.1%	154	2.7%
その他の骨折	83	4.6%	85	3.1%	31	2.9%	199	3.5%
関節リウマチ	36	2.0%	71	2.6%	10	0.9%	117	2.1%
アルツハイマー病	79	4.4%	103	3.8%	47	4.4%	229	4.1%
アルツハイマー病以外の認知症	315	17.4%	519	19.0%	174	16.3%	1,008	18.0%
失語症	142	7.8%	246	9.0%	90	8.4%	478	8.5%
脳性麻痺	12	0.7%	22	0.8%	8	0.8%	42	0.7%
脳梗塞	724	40.0%	958	35.1%	414	38.8%	2,096	37.4%
脳出血	333	18.4%	468	17.1%	170	15.9%	971	17.3%
片側不全麻痺	310	17.1%	347	12.7%	94	8.8%	751	13.4%
四肢麻痺	81	4.5%	292	10.7%	118	11.1%	491	8.8%
仮性球麻痺	257	14.2%	424	15.5%	198	18.6%	879	15.7%
喘息	43	2.4%	60	2.2%	55	5.2%	158	2.8%
腸閉塞(イレウス)	10	0.6%	26	1.0%	32	3.0%	68	1.2%
肝不全	11	0.6%	24	0.9%	16	1.5%	51	0.9%
がん(悪性腫瘍)	95	5.2%	147	5.4%	110	10.3%	352	6.3%
腎不全	81	4.5%	170	6.2%	50	4.7%	301	5.4%

4 その他の患者状態像(医療区分採用項目以外)

■疾患(複数回答) [図表16]

	平成20年度調査								
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)		
糖尿病	**59**	**11.9%**	**245**	**25.5%**	**97**	**20.3%**	**401**	**20.7%**	↑
不整脈	31	6.3%	32	3.3%	24	5.0%	87	4.5%	
急性心不全	2	0.4%	3	0.3%	4	0.8%	9	0.5%	
慢性心不全	**57**	**11.5%**	**138**	**14.4%**	**98**	**20.5%**	**293**	**15.1%**	↑
高血圧症	**130**	**26.2%**	**223**	**23.2%**	**104**	**21.7%**	**457**	**23.6%**	↑
虚血性心疾患	37	7.5%	43	4.5%	26	5.4%	106	5.5%	
腎臓病/透析	18	3.6%	26	2.7%	6	1.3%	50	2.6%	
大腿骨頸部骨折	41	8.3%	58	6.0%	22	4.6%	121	6.3%	
脊椎圧迫骨折	10	2.0%	31	3.2%	13	2.7%	54	2.8%	
その他の骨折	15	3.0%	25	2.6%	11	2.3%	51	2.6%	
関節リウマチ	17	3.4%	19	2.0%	10	2.1%	46	2.4%	
アルツハイマー病	26	5.2%	56	5.8%	25	5.2%	107	5.5%	
アルツハイマー病以外の認知症	85	17.1%	160	16.6%	69	14.4%	314	16.2%	
失語症	49	9.9%	67	7.0%	31	6.5%	147	7.6%	
脳性麻痺	3	0.6%	8	0.8%	2	0.4%	13	0.7%	
脳梗塞	176	35.5%	316	32.9%	161	33.6%	653	33.7%	
脳出血	**72**	**14.5%**	**130**	**13.5%**	**96**	**20.0%**	**298**	**15.4%**	↓
片側不全麻痺	**93**	**18.8%**	**174**	**18.1%**	**100**	**20.9%**	**367**	**19.0%**	↑
四肢麻痺	22	4.4%	109	11.3%	83	17.3%	214	11.1%	
仮性球麻痺	**44**	**8.9%**	**125**	**13.0%**	**84**	**17.5%**	**253**	**13.1%**	↓
気管支喘息	15	3.0%	21	2.2%	22	4.6%	58	3.0%	
腸閉塞(イレウス)	2	0.4%	15	1.6%	8	1.7%	25	1.3%	
肝不全	3	0.6%	2	0.2%	4	0.8%	9	0.5%	
がん(悪性腫瘍)	23	4.6%	74	7.7%	44	9.2%	141	7.3%	
腎不全	15	3.0%	31	3.2%	29	6.1%	75	3.9%	

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの
上記疾患は、平成20年度調査票に記載したもののうち、平成18年度調査票と同じ項目で比較可能なもののみ掲載

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
糖尿病	102	13.2%	183	14.7%	75	14.1%	360	14.1%
不整脈	34	4.4%	48	3.9%	23	4.3%	105	4.1%
急性心不全	2	0.3%	2	0.2%	2	0.4%	6	0.2%
慢性心不全	62	8.0%	80	6.4%	75	14.1%	217	8.5%
高血圧症	175	22.7%	183	14.7%	76	14.3%	434	17.0%
虚血性心疾患	37	4.8%	57	4.6%	22	4.1%	116	4.6%
腎臓病/透析	26	3.4%	49	3.9%	2	0.4%	77	3.0%
大腿骨頸部骨折	54	7.0%	62	5.0%	22	4.1%	138	5.4%
脊椎圧迫骨折	16	2.1%	26	2.1%	10	1.9%	52	2.0%
その他の骨折	24	3.1%	29	2.3%	13	2.4%	66	2.6%
関節リウマチ	9	1.2%	29	2.3%	6	1.1%	44	1.7%
アルツハイマー病	25	3.2%	37	3.0%	17	3.2%	79	3.1%
アルツハイマー病以外の認知症	111	14.4%	228	18.3%	71	13.3%	410	16.1%
失語症	94	12.2%	114	9.2%	52	9.8%	260	10.2%
脳性麻痺	4	0.5%	8	0.6%	1	0.2%	13	0.5%
脳梗塞	302	39.2%	399	32.1%	201	37.8%	902	35.4%
脳出血	180	23.3%	222	17.9%	103	19.4%	505	19.8%
片側不全麻痺	156	20.2%	154	12.4%	56	10.5%	366	14.4%
四肢麻痺	47	6.1%	144	11.6%	57	10.7%	248	9.7%
仮性球麻痺	174	22.6%	269	21.6%	137	25.8%	580	22.8%
喘息	18	2.3%	29	2.3%	28	5.3%	75	2.9%
腸閉塞(イレウス)	1	0.1%	10	0.8%	10	1.9%	21	0.8%
肝不全	5	0.6%	10	0.8%	6	1.1%	21	0.8%
がん(悪性腫瘍)	47	6.1%	63	5.1%	36	6.8%	146	5.7%
腎不全	41	5.3%	56	4.5%	22	4.1%	119	4.7%

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの
上記疾患は、平成20年度調査票に記載したもののうち、平成18年度調査票と同じ項目で比較可能なもののみ掲載

■感染症(複数回答) [図表17]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
抗生物質耐性菌感染(たとえばMRSA)	19	0.8%	92	2.4%	121	7.7%	232	2.9%
後天性免疫不全症候群(HIV感染含む)	0	0.0%	2	0.1%	1	0.1%	3	0.0%
ウイルス性肝炎	30	1.2%	42	1.1%	16	1.0%	88	1.1%
上気道感染	5	0.2%	36	0.9%	22	1.4%	63	0.8%
敗血症	1	0.0%	8	0.2%	12	0.8%	21	0.3%
結核	13	0.5%	5	0.1%	9	0.6%	27	0.3%
インフルエンザ<新規>	1	0.0%	5	0.1%	3	0.2%	9	0.1%
胃腸炎<新規>	11	0.4%	20	0.5%	25	1.6%	56	0.7%
髄膜炎<新規>	1	0.0%	4	0.1%	2	0.1%	7	0.1%

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
抗生物質耐性菌感染(たとえばMRSA)	20	1.1%	81	3.0%	93	8.7%	194	3.5%
後天性免疫不全症候群(HIV感染含む)	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	1	0.0%
ウイルス性肝炎	15	0.8%	15	0.5%	4	0.4%	34	0.6%
上気道感染	15	0.8%	73	2.7%	36	3.4%	124	2.2%
敗血症	1	0.1%	4	0.1%	10	0.9%	15	0.3%
結核	2	0.1%	4	0.1%	1	0.1%	7	0.1%
多剤耐性結核	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
上記以外の結核	2	0.1%	4	0.1%	1	0.1%	7	0.1%
皮膚の感染症	10	0.6%	37	1.4%	22	2.1%	69	1.2%
急性胆嚢炎	7	0.4%	14	0.5%	11	1.0%	32	0.6%
急性膵炎	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	1	0.0%
急性腎炎	0	0.0%	2	0.1%	2	0.2%	4	0.1%

■問題状況(複数回答) [図表18]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
脱水	0	0.0%	249	6.4%	215	13.8%	464	5.9%
妄想	32	1.3%	148	3.8%	31	2.0%	211	2.7%
発熱	**36**	**1.4%**	**350**	**9.1%**	**521**	**33.3%**	**907**	**11.4%** ↓
幻覚	26	1.0%	94	2.4%	31	2.0%	151	1.9%
嘔吐	9	0.4%	53	1.4%	66	4.2%	128	1.6%
胸水	10	0.4%	57	1.5%	98	6.3%	165	2.1%
腹水	6	0.2%	17	0.4%	19	1.2%	42	0.5%
消化管の通過障害(癌を伴う)	1	0.0%	21	0.5%	18	1.2%	40	0.5%
消化管等の体内出血<新規>	0	0.0%	28	0.7%	39	2.5%	67	0.8%
貧血<新規>	59	2.4%	191	4.9%	142	9.1%	392	4.9%
めまい<新規>	20	0.8%	38	1.0%	8	0.5%	66	0.8%
便秘<新規>	527	21.1%	1,280	33.1%	485	31.0%	2,292	28.9%
尿、便失禁<新規>	1,015	40.6%	2,179	56.4%	1,022	65.4%	4,216	53.2%

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
脱水	0	0.0%	186	6.8%	129	12.1%	315	5.6%
妄想	54	3.0%	185	6.8%	32	3.0%	271	4.8%
発熱	50	2.8%	378	13.8%	458	43.0%	886	15.8%
幻覚	33	1.8%	103	3.8%	23	2.2%	159	2.8%
嘔吐	5	0.3%	72	2.6%	39	3.7%	116	2.1%
胸水	4	0.2%	28	1.0%	61	5.7%	93	1.7%
腹水	1	0.1%	10	0.4%	20	1.9%	31	0.6%
消化管の通過障害(癌を伴う)	3	0.2%	7	0.3%	17	1.6%	27	0.5%
高カルシウム血症(10.5mg/dl以上)	0	0.0%	4	0.1%	2	0.2%	6	0.1%
悪液質(癌を伴う)	4	0.2%	9	0.3%	21	2.0%	34	0.6%

■感染症(複数回答) [図表19]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)	
抗生物質耐性菌感染(たとえばMRSA)	8	1.6%	20	2.1%	30	6.3%	58	3.0%
後天性免疫不全症候群(HIV感染含む)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ウイルス性肝炎	13	2.6%	9	0.9%	9	1.9%	31	1.6%
上気道感染	3	0.6%	12	1.2%	12	2.5%	27	1.4%
敗血症	0	0.0%	2	0.2%	4	0.8%	6	0.3%
結核	1	0.2%	2	0.2%	4	0.8%	7	0.4%
インフルエンザ<新規>	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%	2	0.1%
胃腸炎<新規>	2	0.4%	5	0.5%	11	2.3%	18	0.9%
髄膜炎<新規>	1	0.2%	2	0.2%	1	0.2%	4	0.2%

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
抗生物質耐性菌感染(たとえばMRSA)	6	0.8%	15	1.2%	32	6.0%	53	2.1%
後天性免疫不全症候群(HIV感染含む)	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.0%
ウィルス性肝炎	6	0.8%	6	0.5%	4	0.8%	16	0.6%
上気道感染	8	1.0%	41	3.3%	18	3.4%	67	2.6%
敗血症	0	0.0%	2	0.2%	6	1.1%	8	0.3%
結核	1	0.1%	2	0.2%	1	0.2%	4	0.2%
多剤耐性結核	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
上記以外の結核	1	0.1%	2	0.2%	1	0.2%	4	0.2%
皮膚の感染症	4	0.5%	13	1.0%	7	1.3%	24	0.9%
急性胆嚢炎	4	0.5%	7	0.6%	4	0.8%	15	0.6%
急性眼瞼炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
急性腎炎	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

■問題状況(複数回答) [図表20]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)	
脱水	0	0.0%	95	9.9%	100	20.9%	195	10.1%
妄想	6	1.2%	34	3.5%	7	1.5%	47	2.4%
発熱	**14**	**2.8%**	**145**	**15.1%**	**242**	**50.5%**	**401**	**20.7%** ↑
幻覚	3	0.6%	19	2.0%	6	1.3%	28	1.4%
嘔吐	1	0.2%	17	1.8%	23	4.8%	41	2.1%
胸水	0	0.0%	18	1.9%	37	7.7%	55	2.8%
腹水	1	0.2%	4	0.4%	5	1.0%	10	0.5%
消化管の通過障害(癌を伴う)	0	0.0%	7	0.7%	5	1.0%	12	0.6%
消化管等の体内出血<新規>	0	0.0%	11	1.1%	7	1.5%	18	0.9%
貧血<新規>	18	3.6%	47	4.9%	53	11.1%	118	6.1%
めまい<新規>	7	1.4%	13	1.4%	3	0.6%	23	1.2%
便秘<新規>	108	21.8%	283	29.4%	154	32.2%	545	28.2%
尿、便失禁<新規>	259	52.2%	671	69.8%	373	77.9%	1,303	67.3%
全 体	496	100.0%	961	100.0%	479	100.0%	1,936	100.0%

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
脱水	0	0.0%	124	10.0%	80	15.0%	204	8.0%
妄想	25	3.2%	70	5.6%	16	3.0%	111	4.4%
発熱	25	3.2%	196	15.8%	226	42.5%	447	17.6%
幻覚	17	2.2%	35	2.8%	8	1.5%	60	2.4%
嘔吐	2	0.3%	33	2.7%	24	4.5%	59	2.3%
胸水	2	0.3%	11	0.9%	40	7.5%	53	2.1%
腹水	1	0.1%	3	0.2%	7	1.3%	11	0.4%
消化管の通過障害(癌を伴う)	0	0.0%	1	0.1%	8	1.5%	9	0.4%
高カルシウム血症(10.5mg/dl以上)	0	0.0%	2	0.2%	1	0.2%	3	0.1%
悪液質(癌を伴う)	1	0.1%	6	0.5%	11	2.1%	18	0.7%

■処置・治療(複数回答) [図表21]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
抗がん剤療法	4	0.2%	11	0.3%	4	0.3%	19	0.2%
胃癌、腎癌、人工肛門などの癌の処置	**208**	**8.3%**	**810**	**21.0%**	**405**	**25.9%**	**1,423**	**18.0%** ↓
放射線治療	0	0.0%	1	0.0%	1	0.1%	2	0.0%
吸引(1日1～7回)	143	5.7%	271	7.0%	213	13.6%	627	7.9%
輸血	0	0.0%	5	0.1%	14	0.9%	19	0.2%
緩和ケア	9	0.4%	31	0.8%	23	1.5%	63	0.8%
疼痛コントロール	44	1.8%	108	2.8%	49	3.1%	201	2.5%
膀胱留置カテーテル	132	5.3%	426	11.0%	443	28.3%	1,001	12.6%
血糖チェック(週1回～1日2回)	**61**	**2.4%**	**496**	**12.8%**	**235**	**15.0%**	**792**	**10.0%** ↑
インスリン皮下注射	45	1.8%	316	8.2%	110	7.0%	471	5.9%

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
抗がん剤療法	6	0.3%	8	0.3%	3	0.3%	17	0.3%
胃癌、腎癌、人工肛門などの癌の処置	205	11.3%	705	25.8%	296	27.8%	1,206	21.5%
放射線治療	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%	2	0.0%
吸引(1日1～7回)	96	5.3%	205	7.5%	167	15.7%	468	8.3%
輸血	1	0.1%	4	0.1%	12	1.1%	17	0.3%
緩和ケア	6	0.3%	19	0.7%	15	1.4%	40	0.7%
疼痛コントロール	43	2.4%	108	4.0%	35	3.3%	186	3.3%
膀胱留置カテーテル	100	5.5%	328	12.0%	352	33.0%	780	13.9%
血糖チェック(週1回～1日2回)	58	3.2%	103	3.8%	92	8.6%	253	4.5%
インスリン皮下注射	49	2.7%	176	6.4%	53	5.0%	278	5.0%

■状態の安定性(複数回答) [図表22]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
個室における管理が必要	17	0.7%	39	1.0%	116	7.4%	172	2.2%
急性症状が発生したり再発性や慢性の問題が再燃した	**31**	**1.2%**	**128**	**3.3%**	**251**	**16.1%**	**410**	**5.2%** ↓
末期の疾患であり、余命が6ヵ月以下である	9	0.4%	38	1.0%	109	7.0%	156	2.0%
床上安静の指示あり<新規>	74	3.0%	198	5.1%	145	9.3%	417	5.3%

(注)平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
個室における管理が必要	6	0.3%	42	1.5%	95	8.9%	143	2.5%
急性症状が発生したり再発性や慢性の問題が再燃した	45	2.5%	225	8.2%	232	21.8%	502	9.0%
末期の疾患であり余命が6ヶ月以下である	11	0.6%	19	0.7%	73	6.8%	103	1.8%

■処置・治療（複数回答）［図表23］

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)	
抗がん剤療法	1	0.2%	2	0.2%	0	0.0%	3	0.2%
胃瘻、腎瘻、人工肛門などの瘻の処置	**78**	**15.7%**	**323**	**33.6%**	**188**	**39.2%**	**589**	**30.4%** ↑
放射線治療	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%
吸引（1日1～7回）	37	7.5%	61	6.3%	55	11.5%	153	7.9%
輸血	0	0.0%	2	0.2%	7	1.5%	9	0.5%
緩和ケア	5	1.0%	17	1.8%	9	1.9%	31	1.6%
疼痛コントロール	5	1.0%	32	3.3%	15	3.1%	52	2.7%
膀胱留置カテーテル	32	6.5%	114	11.9%	106	22.1%	252	13.0%
血糖チェック（週1回～1日2回）	**5**	**1.0%**	**180**	**18.7%**	**117**	**24.4%**	**302**	**15.6%** ↑
インスリン皮下注射	8	1.6%	91	9.5%	48	10.0%	147	7.6%

（注）平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
抗がん剤療法	2	0.3%	4	0.3%	1	0.2%	7	0.3%
胃瘻、腎瘻、人工肛門などの瘻の処置	111	14.4%	361	29.0%	170	32.0%	642	25.2%
放射線治療	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%
吸引（1日1～7回）	44	5.7%	107	8.6%	78	14.7%	229	9.0%
輸血	0	0.0%	4	0.3%	10	1.9%	14	0.5%
緩和ケア	2	0.3%	3	0.2%	6	1.1%	11	0.4%
疼痛コントロール	13	1.7%	39	3.1%	11	2.1%	63	2.5%
膀胱留置カテーテル	37	4.8%	153	12.3%	126	23.7%	316	12.4%
血糖チェック（週1回～1日2回）	24	3.1%	35	2.8%	47	8.8%	106	4.2%
インスリン皮下注射	20	2.6%	82	6.6%	34	6.4%	136	5.3%

■状態の安定性（複数回答）［図表24］

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)	
個室における管理が必要	3	0.6%	7	0.7%	21	4.4%	31	1.6%
急性症状が発生したり再発性や慢性の問題が再燃した	**5**	**1.0%**	**39**	**4.1%**	**74**	**15.4%**	**118**	**6.1%** ↓
末期の疾患であり、余命が6ヵ月以下である	2	0.4%	12	1.2%	22	4.6%	36	1.9%
床上安静の指示あり＜新規＞	11	2.2%	21	2.2%	26	5.4%	58	3.0%

（注）平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
個室における管理が必要	2	0.3%	13	1.0%	44	8.3%	59	2.3%
急性症状が発生したり再発性や慢性の問題が再燃した	29	3.8%	110	8.8%	123	23.1%	262	10.3%
末期の疾患であり余命が6ヶ月以下である	5	0.6%	5	0.4%	29	5.5%	39	1.5%

■栄養摂取の方法（複数回答）［図表25］

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
中心静脈栄養	0	0.0%	0	0.0%	400	25.6%	400	5.0%
末梢静脈栄養	24	1.0%	126	3.3%	256	16.4%	406	5.1%
経管栄養（経鼻等、胃瘻）	493	19.7%	1,698	43.9%	712	45.6%	2,903	36.6%
経管栄養（経鼻等（胃瘻を除く））	151	6.0%	528	13.7%	246	15.7%	925	11.7%
経管栄養（胃瘻）	342	13.7%	1,172	30.3%	470	30.1%	1,984	25.0%
いずれか1つ以上該当	514	20.6%	1,797	46.5%	1,199	76.7%	3,510	44.3%

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
中心静脈栄養	0	0.0%	0	0.0%	364	34.1%	364	6.5%
末梢静脈栄養	23	1.3%	106	3.9%	199	18.7%	328	5.8%
経管栄養	357	19.7%	1,242	45.5%	468	43.9%	2,067	36.9%
いずれか1つ以上該当	377	20.8%	1,319	48.3%	886	83.1%	2,582	46.0%

■リハビリテーションを要す状態 ［図表26］ （過去3日間における必要性）

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
特にリハビリテーションは必要ではない	**872**	**34.9%**	**1,246**	**32.2%**	**611**	**39.1%**	**2,729**	**34.4%** ↑
維持的リハビリテーションが必要な状態	**1,109**	**44.4%**	**1,890**	**48.9%**	**719**	**46.0%**	**3,718**	**46.9%** ↓
積極的リハビリテーションが必要な状態	396	15.9%	564	14.6%	186	11.9%	1,146	14.5%
無回答	121	4.8%	165	4.3%	47	3.0%	333	4.2%
全 体	2,498	100.0%	3,865	100.0%	1,563	100.0%	7,926	100.0%

（注）平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
特にリハビリテーションは必要ではない	459	25.4%	804	29.4%	428	40.2%	1,691	30.2%
維持的リハビリテーションが必要な状態	968	53.5%	1,409	51.6%	511	47.9%	2,888	51.5%
積極的リハビリテーションが必要な状態	304	16.8%	395	14.5%	73	6.8%	772	13.8%
無回答	79	4.4%	124	4.5%	54	5.1%	257	4.6%
全 体	1,810	100.0%	2,732	100.0%	1,066	100.0%	5,608	100.0%

■リハビリテーションを要す状態（再掲）［図表27］
“必要な状態”の場合、発症してからの日数

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=1,505)		医療区分2 (n=2,454)		医療区分3 (n=905)		全 体 (n=4,864)	
14日以下	12	0.8%	41	1.7%	25	2.8%	78	1.6%
15日から30日以下	10	0.7%	117	4.8%	18	2.0%	145	3.0%
31日から90日以下	274	18.2%	218	8.9%	91	10.1%	583	12.0%
91日から180日以下	220	14.6%	275	11.2%	113	12.5%	608	12.5%
181日以上	**922**	**61.3%**	**1,755**	**71.5%**	**646**	**71.4%**	**3,323**	**68.3%** ↓
無回答	67	4.5%	48	2.0%	12	1.3%	127	2.6%
全 体	1,505	100.0%	2,454	100.0%	905	100.0%	4,864	100.0%

（注）平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,272)		医療区分2 (n=1,804)		医療区分3 (n=584)		回答計 (n=3,660)	
14日以下	1	0.1%	37	2.1%	16	2.7%	54	1.5%
15日から30日以下	6	0.5%	87	4.8%	11	1.9%	104	2.8%
31日から90日以下	151	11.9%	162	9.0%	74	12.7%	387	10.6%
91日から180日以下	172	13.5%	201	11.1%	74	12.7%	447	12.2%
181日以上	933	73.3%	1,308	72.5%	403	69.0%	2,644	72.2%
無回答	9	0.7%	9	0.5%	6	1.0%	24	0.7%
全 体	1,272	100.0%	1,804	100.0%	584	100.0%	3,660	100.0%

■栄養摂取の方法（複数回答）［図表28］

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)	
中心静脈栄養	0	0.0%	0	0.0%	132	27.6%	132	6.8%
末梢静脈栄養	8	1.6%	44	4.6%	72	15.0%	124	6.4%
経管栄養（経鼻等、胃瘻）	139	28.0%	458	47.7%	270	56.4%	867	44.8%
経管栄養（経鼻等（胃瘻を除く））	36	7.3%	117	12.2%	88	18.4%	241	12.4%
経管栄養（胃瘻）	103	20.8%	342	35.6%	183	38.2%	628	32.4%
いずれか1つ以上該当	147	29.6%	491	51.1%	388	81.0%	1,026	53.0%

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
中心静脈栄養	0	0.0%	0	0.0%	170	32.0%	170	6.7%
末梢静脈栄養	9	1.2%	57	4.6%	102	19.2%	168	6.6%
経管栄養	180	23.3%	638	51.3%	279	52.4%	1,097	43.1%
いずれか1つ以上該当	187	24.3%	680	54.7%	458	86.1%	1,325	52.0%

■リハビリテーションを要す状態 過去3日間における必要性 ［図表29］

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)	
特にリハビリテーションは必要ではない	**80**	**16.1%**	**166**	**17.3%**	**72**	**15.0%**	**318**	**16.4%** ↓
維持的リハビリテーションが必要な状態	291	58.7%	582	60.6%	302	63.0%	1,175	60.7%
積極的リハビリテーションが必要な状態	**115**	**23.2%**	**204**	**21.2%**	**103**	**21.5%**	**422**	**21.8%** ↑
無回答	10	2.0%	9	0.9%	2	0.4%	21	1.1%
全 体	496	100.0%	961	100.0%	479	100.0%	1,936	100.0%

（注）平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
特にリハビリテーションは必要ではない	140	18.2%	308	24.8%	141	26.5%	589	23.1%
維持的リハビリテーションが必要な状態	463	60.1%	718	57.8%	335	63.0%	1,516	59.5%
積極的リハビリテーションが必要な状態	155	20.1%	203	16.3%	50	9.4%	408	16.0%
無回答	13	1.7%	14	1.1%	6	1.1%	33	1.3%
全 体	771	100.0%	1,243	100.0%	532	100.0%	2,546	100.0%

■リハビリテーションを要す状態（再掲）［図表30］
“必要な状態”の場合、発症してからの日数

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=406)		医療区分2 (n=786)		医療区分3 (n=405)		全 体 (n=1,597)	
14日以下	2	0.5%	13	1.7%	20	4.9%	35	2.2%
15日から30日以下	0	0.0%	41	5.2%	13	3.2%	54	3.4%
31日から90日以下	73	18.0%	67	8.5%	42	10.4%	182	11.4%
91日から180日以下	48	11.8%	88	11.2%	47	11.6%	183	11.5%
181日以上	**273**	**67.2%**	**574**	**73.0%**	**282**	**69.6%**	**1,129**	**70.7%** ↓
無回答	10	2.5%	3	0.4%	1	0.2%	14	0.9%
全 体	406	100.0%	786	100.0%	405	100.0%	1,597	100.0%

（注）平成20年度集計表の、↑は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、↓は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=618)		医療区分2 (n=921)		医療区分3 (n=385)		回答計 (n=1,924)	
14日以下	0	0.0%	21	2.3%	15	3.9%	36	1.9%
15日から30日以下	1	0.2%	37	4.0%	7	1.8%	45	2.3%
31日から90日以下	57	9.2%	73	7.9%	47	12.2%	177	9.2%
91日から180日以下	61	9.9%	86	9.3%	42	10.9%	189	9.8%
181日以上	498	80.6%	703	76.3%	274	71.2%	1,475	76.7%
無回答	1	0.2%	1	0.1%	0	0.0%	2	0.1%
全 体	618	100.0%	921	100.0%	385	100.0%	1,924	100.0%

■リハビリテーションの実施（複数回答）［図表31］

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
a. 心大血管疾患リハビリテーション（Ⅰ）	2	0.1%	3	0.1%	0	0.0%	5	0.1%
b. 心大血管疾患リハビリテーション（Ⅱ）	2	0.1%	1	0.0%	1	0.1%	4	0.1%
c. 脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）	479	19.2%	1,047	27.1%	446	28.5%	1,972	24.9%
d. 脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）	171	6.8%	323	8.4%	91	5.8%	585	7.4%
e. 脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅲ）	121	4.8%	208	5.4%	54	3.5%	383	4.8%
f. 運動器リハビリテーション（Ⅰ）	383	15.3%	401	10.4%	122	7.8%	906	11.4%
g. 運動器リハビリテーション（Ⅱ）	66	2.6%	72	1.9%	11	0.7%	149	1.9%
h. 呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）	13	0.5%	25	0.6%	33	2.1%	71	0.9%
i. 呼吸器リハビリテーション（Ⅱ）	3	0.1%	7	0.2%	6	0.4%	16	0.2%
j. 摂食機能療法	96	3.8%	260	6.7%	129	8.3%	485	6.1%
k. 集団コミュニケーション療法	16	0.6%	13	0.3%	0	0.0%	29	0.4%
無回答	1,272	50.9%	1,796	46.5%	798	51.1%	3,866	48.8%

※リハビリテーションの体系が変更されているため、割合の増減に関する比較無し

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
a. 心大血管疾患リハビリテーション（Ⅰ）	2	0.1%	8	0.3%	1	0.1%	11	0.2%
b. 心大血管疾患リハビリテーション（Ⅱ）	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	1	0.0%
c. 脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）	431	23.8%	676	24.7%	180	16.9%	1,287	22.9%
d. 脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）	229	12.7%	367	13.4%	105	9.8%	701	12.5%
e. 運動器リハビリテーション（Ⅰ）	170	9.4%	200	7.3%	38	3.6%	408	7.3%
f. 運動器リハビリテーション（Ⅱ）	78	4.3%	91	3.3%	8	0.8%	177	3.2%
g. 呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）	5	0.3%	25	0.9%	30	2.8%	60	1.1%
h. 呼吸器リハビリテーション（Ⅱ）	1	0.1%	1	0.0%	5	0.5%	7	0.1%
無回答	921	50.9%	1,391	50.9%	711	66.7%	3,023	53.9%

■処置・治療　身体抑制 ［図表32］

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=2,498)		医療区分2 (n=3,865)		医療区分3 (n=1,563)		全 体 (n=7,926)	
身体抑制をした	473	18.9%	924	23.9%	368	23.5%	1,765	22.3%
身体抑制をしなかった	1,887	75.5%	2,793	72.3%	1,158	74.1%	5,838	73.7%
無回答	138	5.5%	148	3.8%	37	2.4%	323	4.1%
全 体	2,498	100.0%	3,865	100.0%	1,563	100.0%	7,926	100.0%

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=1,810)		医療区分2 (n=2,732)		医療区分3 (n=1,066)		回答計 (n=5,608)	
身体抑制をした	393	21.7%	643	23.5%	247	23.2%	1,283	22.9%
身体抑制をしなかった	1,315	72.7%	1,972	72.2%	777	72.9%	4,064	72.5%
無回答	102	5.6%	117	4.3%	42	3.9%	261	4.7%
全 体	1,810	100.0%	2,732	100.0%	1,066	100.0%	5,608	100.0%

※「身体抑制をした」の定義は下記のとおり。

平成 18 年度調査：「a. すべてにベッド柵」「c. 体幹部の抑制」「d. 四肢の抑制」「e. 起き上がれない椅子」のいずれかに「1. 毎日は使用しなかった」または「2. 毎日使用した」と回答

平成 20 年度調査：「a. 四肢の抑制」「b. 体幹部の抑制」「c. ベッドを柵（サイドレール）で囲む」「d. 介護衣（つなぎ服）の着用」「e. 車いすや椅子から立ち上がれないようにする（抑制のための腰ベルトや立ち上がれない椅子の使用）」「f. ミトンの使用（手指の機能抑制）」「g. 居室等への隔離（患者の意思による出入りの制限）」のいずれかに「1. 毎日は実施しなかった」または「2. 毎日実施した」と回答

「身体抑制をしなかった」の定義は下記のとおり。

平成 18 年度調査：「a. すべてにベッド柵」「c. 体幹部の抑制」「d. 四肢の抑制」「e. 起き上がれない椅子」のすべてに「0. 使用しなかった」と回答

平成 20 年度調査：「a. 四肢の抑制」「b. 体幹部の抑制」「c. ベッドを柵（サイドレール）で囲む」「d. 介護衣（つなぎ服）の着用」「e. 車いすや椅子から立ち上がれないようにする（抑制のための腰ベルトや立ち上がれない椅子の使用）」「f. ミトンの使用（手指の機能抑制）」「g. 居室等への隔離（患者の意思による出入りの制限）」のすべてに「0. 実施しなかった」と回答

■リハビリテーションの実施(複数回答) [図表33]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)	
a. 心大血管疾患リハビリテーション(Ⅰ)	1	0.2%	1	0.1%	0	0.0%	2	0.1%
b. 心大血管疾患リハビリテーション(Ⅱ)	1	0.2%	0	0.0%	1	0.2%	2	0.1%
c. 脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅰ)	230	46.4%	546	56.8%	265	55.3%	1,041	53.8%
d. 脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅱ)	19	3.8%	48	5.0%	28	5.8%	95	4.9%
e. 脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅲ)	4	0.8%	6	0.6%	1	0.2%	11	0.6%
f. 運動器リハビリテーション(Ⅰ)	120	24.2%	139	14.5%	61	12.7%	320	16.5%
g. 運動器リハビリテーション(Ⅱ)	11	2.2%	7	0.7%	2	0.4%	20	1.0%
h. 呼吸器リハビリテーション(Ⅰ)	2	0.4%	20	2.1%	17	3.5%	39	2.0%
i. 呼吸器リハビリテーション(Ⅱ)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
j. 摂食機能療法	41	8.3%	128	13.3%	61	12.7%	230	11.9%
k. 集団コミュニケーション療法	14	2.8%	3	0.3%	0	0.0%	17	0.9%
無回答	115	23.2%	211	22.0%	113	23.6%	439	22.7%

※リハビリテーションの体系が変更されているため、割合の増減に関する比較無し

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
a. 心大血管疾患リハビリテーション(Ⅰ)	2	0.3%	8	0.6%	1	0.2%	11	0.4%
b. 心大血管疾患リハビリテーション(Ⅱ)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
c. 脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅰ)	233	30.2%	407	32.7%	117	22.0%	757	29.7%
d. 脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅱ)	89	11.5%	133	10.7%	54	10.2%	276	10.8%
e. 運動器リハビリテーション(Ⅰ)	58	7.5%	89	7.2%	25	4.7%	172	6.8%
f. 運動器リハビリテーション(Ⅱ)	22	2.9%	16	1.3%	3	0.6%	41	1.6%
g. 呼吸器リハビリテーション(Ⅰ)	3	0.4%	24	1.9%	24	4.5%	51	2.0%
h. 呼吸器リハビリテーション(Ⅱ)	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.0%
無回答	370	48.0%	574	46.2%	315	59.2%	1,259	49.5%

■処置・治療　身体抑制 [図表34]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=496)		医療区分2 (n=961)		医療区分3 (n=479)		全 体 (n=1,936)	
身体抑制をした	94	19.0%	248	25.8%	121	25.3%	463	23.9%
身体抑制をしなかった	383	77.2%	694	72.2%	355	74.1%	1,432	74.0%
無回答	19	3.8%	19	2.0%	3	0.6%	41	2.1%
全 体	496	100.0%	961	100.0%	479	100.0%	1,936	100.0%

(注)平成20年度集計表の、[は平成18年度と比較して3%以上増加がみられたもの、] は3%以上減少がみられたもの

	平成18年度調査							
	医療区分1 (n=771)		医療区分2 (n=1,243)		医療区分3 (n=532)		回答計 (n=2,546)	
身体抑制をした	131	17.0%	286	23.0%	109	20.5%	526	20.7%
身体抑制をしなかった	605	78.5%	914	73.5%	401	75.4%	1,920	75.4%
無回答	35	4.5%	43	3.5%	22	4.1%	100	3.9%
全 体	771	100.0%	1,243	100.0%	532	100.0%	2,546	100.0%

※「身体抑制をした」の定義は下記のとおり。

平成 18 年度調査：「a. すべてにベッド柵」「c. 体幹部の抑制」「d. 四肢の抑制」「e. 起き上がれない椅子」のいずれかに「1. 毎日は使用しなかった」または「2. 毎日使用した」と回答

平成 20 年度調査：「a. 四肢の抑制」「b. 体幹部の抑制」「c. ベッドを柵（サイドレール）で囲む」「d. 介護衣（つなぎ服）の着用」「e. 車いすや椅子から立ち上がれないようにする（抑制のための腰ベルトや立ち上がれない椅子の使用）」「f. ミトンの使用（手指の機能抑制）」「g. 居室等への隔離（患者の意思による出入りの制限）」のいずれかに「1. 毎日は実施しなかった」または「2. 毎日実施した」と回答

「身体抑制をしなかった」の定義は下記のとおり。

平成 18 年度調査：「a. すべてにベッド柵」「c. 体幹部の抑制」「d. 四肢の抑制」「e. 起き上がれない椅子」のすべてに「0. 使用しなかった」と回答

平成 20 年度調査：「a. 四肢の抑制」「b. 体幹部の抑制」「c. ベッドを柵（サイドレール）で囲む」「d. 介護衣（つなぎ服）の着用」「e. 車いすや椅子から立ち上がれないようにする（抑制のための腰ベルトや立ち上がれない椅子の使用）」「f. ミトンの使用（手指の機能抑制）」「g. 居室等への隔離（患者の意思による出入りの制限）」のすべてに「0. 実施しなかった」と回答

平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査
《療養病棟におけるケアの質の評価
（患者特性調査における Quality Indicator の試行）

集計対象（施設）：平成 20 年度調査および平成 18 年度調査における共通の病院（25 病院）
（患者）：平成 20 年度・18 年度調査ともに療養病棟入院基本料を算定している患者（入院後 14 日以内の患者を除く）

（注）今回用いたＱＩは、わが国の急性期以外の医療保険病棟のケアの質の評価について試行的に行われたＱＩの定義[1]に準拠

1 QI の変化

[図表35]

■平成20年度患者特性調査 QI 算出結果

QI項目	平成 20 年度患者特性調査 QI 算出結果									
	病院数	分母の患者数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	25% 分位点	75% 分位点	平均 ±2標準偏差	外れ値病院数
痛み	25	2,047	4.3%	3.7%	0.0%	15.2%	2.7%	5.2%	11.7%	2
褥瘡ハイリスク	25	432	13.0%	7.7%	0.0%	31.4%	8.7%	16.4%	28.5%	1
褥瘡ローリスク	24	1,615	2.7%	5.7%	0.0%	25.0%	0.0%	2.6%	14.1%	1
身体抑制	25	2,047	19.6%	24.1%	0.0%	100.0%	2.5%	24.0%	67.8%	2
留置カテーテル	25	2,047	14.6%	9.6%	3.0%	35.3%	6.8%	20.2%	33.7%	2
尿路感染	25	2,047	11.2%	14.4%	0.0%	60.3%	1.7%	14.8%	40.1%	2
ADLの低下①	24	1,649	7.5%	6.1%	0.0%	24.7%	2.0%	10.0%	19.7%	1
ADLの低下②	22	253	10.7%	11.0%	0.0%	33.3%	0.0%	13.4%	32.7%	2

■平成18年度患者特性調査 QI 算出結果

QI項目	平成 18 年度患者特性調査 QI 算出結果									
	病院数	分母の患者数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	25% 分位点	75% 分位点	平均 ±2標準偏差	外れ値病院数
痛み	25	2,244	7.7%	7.7%	0.0%	26.7%	2.6%	8.8%	23.1%	3
褥瘡ハイリスク	25	1,710	16.3%	7.8%	3.1%	28.6%	8.3%	23.0%	31.9%	0
褥瘡ローリスク	24	534	3.7%	6.1%	0.0%	25.0%	0.0%	5.0%	15.9%	1
身体抑制	25	2,244	24.7%	30.1%	0.0%	100.0%	1.0%	30.9%	84.8%	1
留置カテーテル	25	2,244	11.0%	8.0%	0.0%	27.4%	5.3%	15.6%	27.0%	1
尿路感染	25	2,244	8.3%	6.8%	0.0%	23.3%	3.4%	12.5%	22.0%	1
ADLの低下①	24	1,648	7.6%	7.1%	0.0%	28.1%	0.0%	9.6%	21.8%	2
ADLの低下②	22	468	12.8%	21.5%	0.0%	100.0%	0.0%	11.6%	55.9%	1

[1] 山田ゆかり 池上直己 (2005) MDS-QI (Minimum Data Set-Quality Indicators)による質の評価 ―急性期以外の医療保険病棟における試行― 病院管理 Vol42, No.4, pp13-23.

《 参 考 》

■QI の定義

項目名	分子	分母 （記載の無い場合は入院 14 日以内の患者を除く全患者）	患者特性 ※備考1
痛み	中程度の痛みが毎日あるか、耐え難い痛みがある		
褥瘡ハイリスク	Ⅰ度以上の褥瘡がある患者数	寝返りが移乗の広範な障害、昏睡状態、栄養障害のいずれかに該当する患者に限る	認知機能の自立
褥瘡ローリスク	Ⅰ度以上の褥瘡がある患者数	褥瘡ハイリスクに該当する患者を除外	
身体抑制	毎日身体抑制している ※備考２		
留置カテーテル	留置カテーテルを挿入している　※備考３		便失禁、褥瘡
尿路感染症	尿路感染症である		
ADL の低下①	過去 90 日間における ADL 自立度の悪化	在院日数 90 日以上の患者のうち、昏睡・末期・緩和ケアに該当する患者を除外	
ADL の低下②	入院時と比較しての ADL 自立度の悪化	在院日数 15 日以上 90 日未満の患者のうち、昏睡・末期・緩和ケアに該当する患者を除外	

（備考）

1. 下記に記載のあるＱＩを算出するためには、前回アセスメントにおいて、下記に列挙した患者の状態によりリスクを調整する必要があるが、今回は一時点のアセスメントデータのみであったため、こうしたリスク調整を行っていない。
2. 身体抑制については、基準を変更しており、介護保険指定基準において禁止対象となる具体的な行為（「身体拘束ゼロへの手引き」厚生労働省 2001 年３月７日作成）に準じ、患者特性調査において、下記の項目のいずれかを「毎日使用した」場合に、「毎日身体抑制している」に該当するものとした。
   A) すべてにベッド柵
   B) 体幹部の抑制
   C) 四肢の抑制
   D) 起き上がれない椅子
3. 患者特性調査において把握可能な「膀胱留置カテーテルの使用」の有無で算出した。

平成 20 年度

慢性期入院医療の包括評価に関する調査　集計結果

患者特性調査
（診療所）

平成20年度慢性期入院医療の包括評価に関する調査
《患者特性調査(診療所)集計結果》

平成 20 年度調査集計対象：平成 20 年度調査対象診療所（96 施設）で療養病床入院基本料を算定している患者
（注）本集計における「医療区分」は、患者調査票の回答に基づくものであるため診療報酬上の医療区分と一致しない場合がある。

1 医療区分・ADL区分の状況

■医療区分・ADL 区分 [図表1]

	平成20年度調査				平成18年度調査 H18年度有床診療所患者分類分布調査 2006年9月末日、10月末日、11月末日の計(診療所数109施設)			
	医療区分1 (n=342)	医療区分2 (n=381)	医療区分3 (n=51)	合 計 (n=774)	医療区分1 (n=1,247)	医療区分2 (n=885)	医療区分3 (n=78)	合 計 (n=2,210)
ADL区分3	5.7%	14.5%	3.6%	23.8%	9.9%	27.7%	3.5%	-
ADL区分2	8.9%	14.2%	1.0%	24.2%	46.6%			
ADL区分1	29.6%	20.5%	1.9%	52.1%		12.3%		
全 体	44.2%	49.2%	6.6%	100.0%	56.4%	40.0%	3.5%	100.0%
無回答(n)	(19)	(4)	(0)	(23)	(0)	(0)	(0)	(0)

2 医療区分採用項目の該当状況

■医療区分採用項目 [図表2]

	平成20年度調査			
	医療区分1 (n=361)	医療区分2 (n=385)	医療区分3 (n=51)	合 計 (n=797)
1. 24時間持続して点滴を実施	**0.0%**	**0.0%**	**19.6%**	**1.3%**
2. 尿路感染症に対する治療	**0.0%**	**7.3%**	**9.8%**	**4.1%**
3. 傷病等によりリハビリテーションを必要とする状態	0.0%	8.1%	5.9%	4.3%
4. 脱水に対する治療	0.0%	7.0%	9.8%	4.0%
(4. 脱水に対する治療[×発熱])	0.0%	2.1%	5.9%	1.4%
(4. 脱水に対する治療[×発熱38度以上])	0.0%	1.0%	2.0%	0.6%
5. 消化管等の体内から出血が反復継続している状態	0.0%	1.8%	11.8%	1.6%
6. 頻回の嘔吐に対する治療	0.0%	1.0%	2.0%	0.6%
(6. 頻回の嘔吐に対する治療[×発熱])	0.0%	0.0%	2.0%	0.1%
(6. 頻回の嘔吐に対する治療[×発熱38度以上])	0.0%	0.0%	2.0%	0.1%
7. せん妄に対する治療	0.0%	5.2%	3.9%	2.8%
8. 経鼻胃管・胃瘻等の経腸栄養が行われ、発熱又は嘔吐を伴う状態	**0.0%**	**2.6%**	**7.8%**	**1.8%**
9. 頻回の血液検査を実施(1日3回以上)	**0.0%**	**7.8%**	**9.8%**	**4.4%**
10. スモンに罹患	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12. 医師及び看護師により、常時、監視・管理を実施	0.0%	0.0%	5.9%	0.4%
13. 中心静脈栄養を実施	**0.0%**	**0.0%**	**5.9%**	**0.4%**
14. 人工呼吸器を使用	0.0%	0.0%	5.9%	0.4%
15. ドレーン法・胸腹腔の洗浄	0.0%	0.0%	5.9%	0.4%
16. 気管切開・気管内挿管の実施が行われ、発熱を伴う状態	0.0%	0.0%	5.9%	0.4%
(16. 気管切開・気管内挿管の実施[×発熱38度以上])	0.0%	0.0%	2.0%	0.1%
17. 酸素療法の実施	**0.0%**	**0.0%**	**64.7%**	**4.1%**
18. 感染隔離室での管理を実施	0.0%	0.0%	13.7%	0.9%
19・21筋ジストロフィー症・筋萎縮性側索硬化症に罹患	0.0%	1.6%	0.0%	0.8%
20. 多発性硬化症に罹患	0.0%	0.5%	0.0%	0.3%
22. パーキンソン病関連疾患に罹患	**0.0%**	**8.8%**	**2.0%**	**4.4%**
23. その他の難病に罹患	0.0%	0.8%	2.0%	0.5%
24. 脊髄損傷(頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに認められる)	0.0%	0.5%	0.0%	0.3%
25. 慢性閉塞性肺疾患(ヒュー・ジョーンズの分類がV度以上)	0.0%	0.8%	2.0%	0.5%
26. 透析を実施	**0.0%**	**20.8%**	**11.8%**	**10.8%**
29. 悪性腫瘍(疼痛コントロールが必要な場合に限る)	0.0%	1.0%	2.0%	0.6%
30. 肺炎に対する治療	**0.0%**	**7.5%**	**19.6%**	**4.9%**
31. 褥瘡に対する治療(2度以上または2箇所以上)	**0.0%**	**11.7%**	**21.6%**	**7.0%**
32. 末梢循環障害による下肢末端の開放創に対する治療	0.0%	3.1%	2.0%	1.6%
33. うつ症状に対する治療	**0.0%**	**25.2%**	**15.7%**	**13.2%**
34. 他者に対する暴行が毎日認められる状態	0.0%	3.1%	0.0%	1.5%
35. 1日8回以上の喀痰吸引を実施	**0.0%**	**6.2%**	**23.5%**	**4.5%**
36. 気管切開・気管内挿管の実施(発熱を伴う場合を除く)	**0.0%**	**2.6%**	**13.7%**	**2.1%**
37. 創傷、皮膚潰瘍、下腿、足部の蜂巣炎、膿等の感染症に対する治療	0.0%	18.7%	27.5%	10.8%

3 入退院の状況

■調査病床に入院する前の状況 [図表3]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
1. 自宅(家族等との同居も含む)	170	47.1%	137	35.6%	15	29.4%	322	40.4%
2. 有料老人ホーム等	8	2.2%	6	1.6%	0	0.0%	14	1.8%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	6	1.7%	5	1.3%	3	5.9%	14	1.8%
4. 介護老人保健施設	7	1.9%	6	1.6%	0	0.0%	13	1.6%
5. 他の医療機関	115	31.9%	173	44.9%	24	47.1%	312	39.1%
(再掲)他の医療機関の一般病床	109	30.2%	152	39.5%	23	45.1%	284	35.6%
(再掲)他の医療機関の療養病床	4	1.1%	15	3.9%	1	2.0%	20	2.5%
(再掲)他の医療機関のその他の病床(精神病床等)	2	0.6%	6	1.6%	0	0.0%	8	1.0%
6. 自院の他の病床	42	11.6%	44	11.4%	7	13.7%	93	11.7%
(再掲)自院の一般病床	39	10.8%	37	9.6%	7	13.7%	83	10.4%
(再掲)自院のその他の病床(精神病床等)	3	0.8%	7	1.8%	0	0.0%	10	1.3%
無回答	13	3.6%	14	3.6%	2	3.9%	29	3.6%
全 体	361	100.0%	385	100.0%	51	100.0%	797	100.0%

■調査病床に入院した背景(複数回答) [図表4]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
疾病の急性期状態が安定したため	88	24.4%	150	39.0%	24	47.1%	262	32.9%
疾病の急性増悪	63	17.5%	54	14.0%	11	21.6%	128	16.1%
継続的な高度の医療管理が必要	17	4.7%	46	11.9%	12	23.5%	75	9.4%
継続的なリハビリが必要	103	28.5%	122	31.7%	10	19.6%	235	29.5%
他施設の空きがない	42	11.6%	39	10.1%	3	5.9%	84	10.5%
介護老人保健施設でも対応できるが、空きがないため	26	7.2%	27	7.0%	3	5.9%	56	7.0%
介護老人福祉施設(特養)でも対応できるが、空きがないため	28	7.8%	26	6.8%	3	5.9%	57	7.2%
在宅療養でも対応できるが、家族の受け入れ体制が整わないため	99	27.4%	99	25.7%	5	9.8%	203	25.5%
本人、家族等が希望するため	241	66.8%	272	70.6%	28	54.9%	541	67.9%
疾病の急性発症<新規>	59	16.3%	53	13.8%	6	11.8%	118	14.8%
その他	6	1.7%	7	1.8%	4	7.8%	17	2.1%

■退院の見通し [図表5]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
治癒または軽快して30日以内に退院できる見通し	67	18.6%	48	12.5%	7	13.7%	122	15.3%
治癒または軽快して90日以内に退院できる見通し	36	10.0%	29	7.5%	3	5.9%	68	8.5%
治癒または軽快して90日以内に退院できる見通しはないが、今後受け皿が整備されれば退院できる	88	24.4%	76	19.7%	7	13.7%	171	21.5%
治癒または軽快する見込みはなく、転院・転床・死亡する見通し	31	8.6%	49	12.7%	12	23.5%	92	11.5%
退院(転院・転床含む)の見通しはない	136	37.7%	176	45.7%	22	43.1%	334	41.9%
無回答	3	0.8%	7	1.8%	0	0.0%	10	1.3%
全 体	361	100.0%	385	100.0%	51	100.0%	797	100.0%

■退院先の見通し(再掲) [図表6]
(退院の見通しで「90 日以内に退院できる見通し」の回答者)

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=103)		医療区分2 (n=77)		医療区分3 (n=10)		全 体 (n=190)	
1. 自宅(家族との同居を含む)	80	77.7%	65	84.4%	10	100.0%	155	81.6%
2. 有料老人ホーム等	3	2.9%	3	3.9%	0	0.0%	6	3.2%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	2	1.9%	1	1.3%	0	0.0%	3	1.6%
4. 介護老人保健施設	12	11.7%	5	6.5%	0	0.0%	17	8.9%
5. 他の医療機関の一般病床	1	1.0%	1	1.3%	0	0.0%	2	1.1%
6. 他の医療機関の療養病床	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
7. 他の医療機関のその他の病床	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8. 自院の一般病床	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
9. 自院の介護療養病床	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
10.その他	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	1	0.5%
無回答	5	4.9%	1	1.3%	0	0.0%	6	3.2%
全 体	103	100.0%	77	100.0%	10	100.0%	190	100.0%

※「治癒または軽快して30日以内に退院できる見通し」と「治癒または軽快して90日以内に退院できる見通し」を合わせた患者数

■退院先の見通し(再掲) [図表7]
(退院の見通しで「今後受け皿が整備されれば退院できる」の回答者)

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=88)		医療区分2 (n=76)		医療区分3 (n=7)		全 体 (n=171)	
1. 自宅(家族との同居を含む)	35	39.8%	28	36.8%	2	28.6%	65	38.0%
2. 有料老人ホーム等	4	4.5%	4	5.3%	0	0.0%	8	4.7%
3. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	17	19.3%	19	25.0%	3	42.9%	39	22.8%
4. 介護老人保健施設	20	22.7%	14	18.4%	1	14.3%	35	20.5%
5. 他の医療機関の一般病床	1	1.1%	1	1.3%	0	0.0%	2	1.2%
6. 他の医療機関の療養病床	2	2.3%	2	2.6%	0	0.0%	4	2.3%
7. 他の医療機関のその他の病床	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
8. 自院の一般病床	4	4.5%	1	1.3%	0	0.0%	5	2.9%
9. 自院の介護療養病床	2	2.3%	2	2.6%	0	0.0%	4	2.3%
10.その他	1	1.1%	5	6.6%	1	14.3%	7	4.1%
無回答	2	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.2%
全 体	88	100.0%	76	100.0%	7	100.0%	171	100.0%

4 その他の患者状態像(医療区分採用項目以外)

■疾患(複数回答) [図表8]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
糖尿病	39	10.8%	92	23.9%	10	19.6%	141	17.7%
不整脈	23	6.4%	29	7.5%	5	9.8%	57	7.2%
急性心不全	2	0.6%	2	0.5%	1	2.0%	5	0.6%
慢性心不全	33	9.1%	26	6.8%	10	19.6%	69	8.7%
高血圧症	143	39.6%	144	37.4%	14	27.5%	301	37.8%
虚血性心疾患	39	10.8%	39	10.1%	7	13.7%	85	10.7%
脊髄損傷	0	0.0%	6	1.6%	0	0.0%	6	0.8%
大腿骨頸部骨折	24	6.6%	22	5.7%	5	9.8%	51	6.4%
脊椎圧迫骨折	33	9.1%	32	8.3%	1	2.0%	66	8.3%
その他の骨折	19	5.3%	26	6.8%	1	2.0%	46	5.8%
関節リウマチ	15	4.2%	9	2.3%	1	2.0%	25	3.1%
アルツハイマー病	26	7.2%	43	11.2%	3	5.9%	72	9.0%
アルツハイマー病以外の認知症	33	9.1%	66	17.1%	7	13.7%	106	13.3%
失語症	13	3.6%	17	4.4%	5	9.8%	35	4.4%
脳性麻痺	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
脳梗塞	70	19.4%	91	23.6%	17	33.3%	178	22.3%
脳出血	10	2.8%	26	6.8%	3	5.9%	39	4.9%
片側不全麻痺	26	7.2%	35	9.1%	3	5.9%	64	8.0%
四肢麻痺	8	2.2%	19	4.9%	7	13.7%	34	4.3%
筋性球麻痺	2	0.6%	4	1.0%	0	0.0%	6	0.8%
気管支喘息	13	3.6%	9	2.3%	2	3.9%	24	3.0%
腸閉塞(イレウス)	3	0.8%	3	0.8%	0	0.0%	6	0.8%
肝不全	4	1.1%	2	0.5%	0	0.0%	6	0.8%
がん(悪性腫瘍)	16	4.4%	20	5.2%	8	15.7%	44	5.5%
腎不全	14	3.9%	86	22.3%	7	13.7%	107	13.4%

■感染症(複数回答) [図表9]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
抗生物質耐性菌感染(たとえばMRSA)	1	0.3%	5	1.3%	8	15.7%	14	1.8%
後天性免疫不全症候群(HIV感染含む)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ウイルス性肝炎	6	1.7%	9	2.3%	1	2.0%	16	2.0%
上気道感染	2	0.6%	2	0.5%	2	3.9%	6	0.8%
敗血症	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	0.1%
結核	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.1%
インフルエンザ<新規>	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
胃腸炎<新規>	3	0.8%	8	2.1%	1	2.0%	12	1.5%
髄膜炎<新規>	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

■問題状況(複数回答) [図表10]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
脱水	0	0.0%	27	7.0%	5	9.8%	32	4.0%
妄想	10	2.8%	25	6.5%	5	9.8%	40	5.0%
発熱	5	1.4%	28	7.3%	13	25.5%	46	5.8%
幻覚	7	1.9%	26	6.8%	3	5.9%	36	4.5%
嘔吐	1	0.3%	12	3.1%	3	5.9%	16	2.0%
胸水	1	0.3%	4	1.0%	5	9.8%	10	1.3%
腹水	0	0.0%	3	0.8%	3	5.9%	6	0.8%
消化管の通過障害(癌を伴う)	0	0.0%	4	1.0%	2	3.9%	6	0.8%
消化管等の体内出血<新規>	0	0.0%	7	1.8%	6	11.8%	13	1.6%
貧血<新規>	18	5.0%	61	15.8%	12	23.5%	91	11.4%
めまい<新規>	12	3.3%	22	5.7%	2	3.9%	36	4.5%
便秘<新規>	58	16.1%	143	37.1%	12	23.5%	213	26.7%
尿、便失禁<新規>	73	20.2%	132	34.3%	32	62.7%	237	29.7%

■処置・治療(複数回答) [図表11]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
抗がん剤療法	0	0.0%	1	0.3%	1	2.0%	2	0.3%
胃瘻、腎瘻、人工肛門などの瘻の処置	5	1.4%	27	7.0%	10	19.6%	42	5.3%
放射線治療	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	0.1%
吸引(1日1～7回)	6	1.7%	20	5.2%	8	15.7%	34	4.3%
輸血	1	0.3%	1	0.3%	1	2.0%	3	0.4%
緩和ケア	0	0.0%	4	1.0%	2	3.9%	6	0.8%
疼痛コントロール	24	6.6%	16	4.2%	2	3.9%	42	5.3%
膀胱留置カテーテル	9	2.5%	29	7.5%	12	23.5%	50	6.3%
血糖チェック(週1回～1日2回)	16	4.4%	24	6.2%	10	19.6%	50	6.3%
インスリン皮下注射	5	1.4%	26	6.8%	8	15.7%	39	4.9%

■状態の安定性(複数回答) [図表12]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
個室における管理が必要	7	1.9%	19	4.9%	7	13.7%	33	4.1%
急性症状が発生したり再発性や慢性の問題が再燃した	1	0.3%	4	1.0%	2	3.9%	7	0.9%
末期の疾患であり、余命が6ヵ月以下である	3	0.8%	13	3.4%	4	7.8%	20	2.5%
床上安静の指示あり<新規>	16	4.4%	16	4.2%	1	2.0%	33	4.1%

■栄養摂取の方法(複数回答) [図表13]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
中心静脈栄養	0	0.0%	0	0.0%	3	5.9%	3	0.4%
末梢静脈栄養	2	0.6%	12	3.1%	8	15.7%	22	2.8%
経管栄養(経鼻等、胃瘻)	28	7.8%	62	16.1%	18	35.3%	108	13.6%
経管栄養(経鼻等(胃瘻を除く))	15	4.2%	23	6.0%	6	11.8%	44	5.5%
経管栄養(胃瘻)	13	3.6%	39	10.1%	12	23.5%	64	8.0%
いずれか1つ以上該当	30	8.3%	72	18.7%	28	54.9%	130	16.3%

■リハビリテーションを要す状態 過去3日間における必要性 [図表14]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
特にリハビリテーションは必要ではない	183	50.7%	156	40.5%	34	66.7%	373	46.8%
維持的リハビリテーションが必要な状態	104	28.8%	158	41.0%	12	23.5%	274	34.4%
積極的リハビリテーションが必要な状態	39	10.8%	41	10.6%	2	3.9%	82	10.3%
無回答	35	9.7%	30	7.8%	3	5.9%	68	8.5%
全 体	361	100.0%	385	100.0%	51	100.0%	797	100.0%

■リハビリテーションを要す状態(再掲) [図表15]
"必要な状態"の場合、発症してからの日数

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=143)		医療区分2 (n=199)		医療区分3 (n=14)		全 体 (n=356)	
14日以下	3	2.1%	12	6.0%	1	7.1%	16	4.5%
15日から30日以下	5	3.5%	24	12.1%	2	14.3%	31	8.7%
31日から90日以下	46	32.2%	18	9.0%	1	7.1%	65	18.3%
91日から180日以下	22	15.4%	21	10.6%	2	14.3%	45	12.6%
181日以上	64	44.8%	123	61.8%	8	57.1%	195	54.8%
無回答	3	2.1%	1	0.5%	0	0.0%	4	1.1%
全 体	143	100.0%	199	100.0%	14	100.0%	356	100.0%

■リハビリテーションの実施(複数回答) [図表16]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
a. 心大血管疾患リハビリテーション(Ⅰ)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
b. 心大血管疾患リハビリテーション(Ⅱ)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
c. 脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅰ)	11	3.0%	6	1.6%	0	0.0%	17	2.1%
d. 脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅱ)	3	0.8%	2	0.5%	0	0.0%	5	0.6%
e. 脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅲ)	1	0.3%	6	1.6%	3	5.9%	10	1.3%
f. 運動器リハビリテーション(Ⅰ)	38	10.5%	49	12.7%	5	9.8%	92	11.5%
g. 運動器リハビリテーション(Ⅱ)	35	9.7%	27	7.0%	0	0.0%	62	7.8%
h. 呼吸器リハビリテーション(Ⅰ)	2	0.6%	1	0.3%	0	0.0%	3	0.4%
i. 呼吸器リハビリテーション(Ⅱ)	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
j. 摂食機能療法	2	0.6%	9	2.3%	1	2.0%	12	1.5%
k. 集団コミュニケーション療法	10	2.8%	16	4.2%	1	2.0%	27	3.4%
無回答	279	77.3%	286	74.3%	41	80.4%	606	76.0%

■処置・治療　身体抑制 [図表17]

	平成20年度調査							
	医療区分1 (n=361)		医療区分2 (n=385)		医療区分3 (n=51)		全 体 (n=797)	
身体抑制をした	37	10.2%	99	25.7%	13	25.5%	149	18.7%
身体抑制をしなかった	305	84.5%	257	66.8%	36	70.6%	598	75.0%
無回答	361	100.0%	385	100.0%	51	100.0%	797	100.0%
全 体	496	100.0%	961	100.0%	479	100.0%	1,936	100.0%

※「身体抑制をした」の定義は下記のとおり。

「a. 四肢の抑制」「b. 体幹部の抑制」「c. ベッドを柵（サイドレール）で囲む」「d. 介護衣（つなぎ服）の着用」「e. 車いすや椅子から立ち上がれないようにする（抑制のための腰ベルトや立ち上がれない椅子の使用）」「f. ミトンの使用（手指の機能抑制）」「g. 居室等への隔離（患者の意思による出入りの制限）」のいずれかに「1. 毎日は実施しなかった」または「2. 毎日実施した」と回答

「身体抑制をしなかった」の定義は下記のとおり。

「a. 四肢の抑制」「b. 体幹部の抑制」「c. ベッドを柵（サイドレール）で囲む」「d. 介護衣（つなぎ服）の着用」「e. 車いすや椅子から立ち上がれないようにする（抑制のための腰ベルトや立ち上がれない椅子の使用）」「f. ミトンの使用（手指の機能抑制）」「g. 居室等への隔離（患者の意思による出入りの制限）」のすべてに「0. 実施しなかった」と回答

参考資料1
21.6.11

中央社会保険医療協議会診療報酬調査専門組織

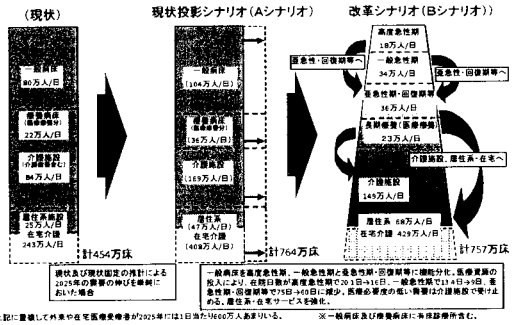
慢性期入院医療の包括評価調査分科会

2009年6月11日(木)

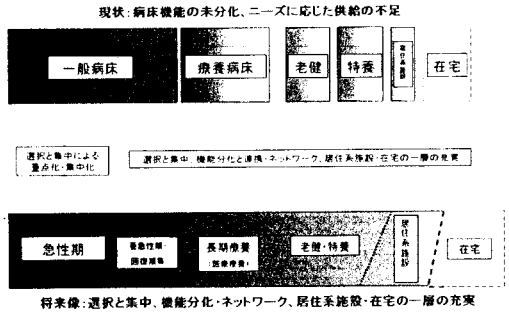
医療法人平成博愛会 博愛記念病院理事長
一般社団法人 日本慢性期医療協会会長
武久 洋三

改革シナリオ(B3シナリオ)

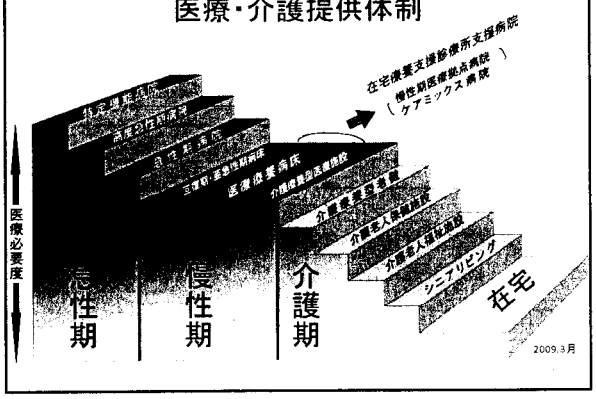
大胆な仮定をおいた平成37(2025)年時点のシミュレーションである



医療・介護提供体制の現状と将来像(イメージ図)



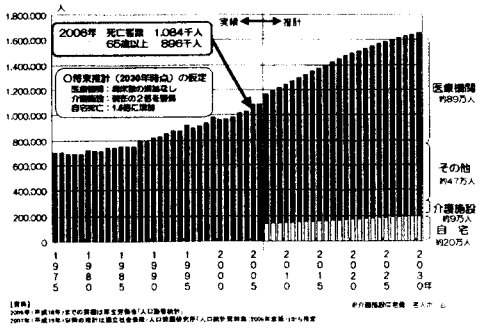
医療・介護提供体制



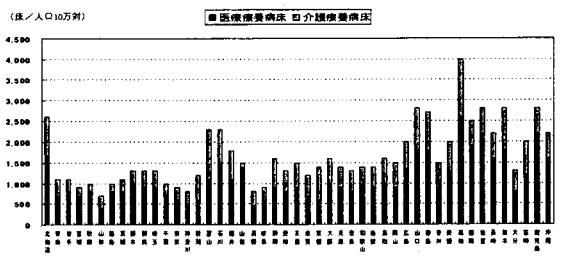
医療と介護の関与度

	医療	介護
■高度急性期病床	8	2
■一般病床	7	3
■医療療養病床	6	4
■介護療養型医療施設	5	5
■介護療養型老健	4	6
■従来型老健	3	7
■特別養護老人ホーム	2	8
	1	9

今後の看取りの場所

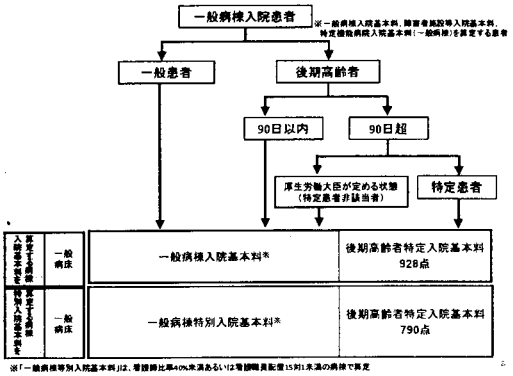


65歳以上人口10万対療養病床数(2005年)



＊厚生労働省「平成17年　医療施設調査」「平成17年　介護サービス施設・事業所調査」から作成

一般病床における算定点数フローチャート



※「一般病棟特別入院基本料」は、看護師比率40%未満あるいは看護職員配置15対1未満の病棟で算定

特定患者から除外される基本料算定患者

	状態等	診療報酬点数	実施の期間等
1	難病患者等入院診療加算を算定する患者	難病患者等入院診療加算	当該加算を算定している期間
2	重症者等療養環境特別加算を算定する患者	重症患者等療養環境特別加算	当該加算を算定している期間
3	重度の肢体不自由者、脊髄損傷等の重度障害者、重度の意識障害者、筋ジストロフィー患者及び難病患者等	－	左欄の状態にある期間
4	悪性新生物に対する治療を実施している状態	（省略）	左欄治療により、集中的な入院加療を要する期間
5	観血的動脈圧測定を実施している状態	（省略）	当該月において2日以上実施していること
6	リハビリテーションを実施している状態	（省略）	週3回以上実施している週が、当該月において2週以上であること
7	ドレーン法若しくは胸腔又は腹腔の洗浄を実施している状態	（省略）	当該月において2週以上実施していること
8	経回腸瘻吸引・排出を実施している状態	（省略）	1日に8回以上実施している日が当該月において20日以上であること
9	人工呼吸器を使用している状態	（省略）	当該月において1週以上使用していること
10	人工腎臓、持続緩徐式血液濾過又は血漿交換療法を実施している状態	（省略）	
11	全身麻酔その他これに準ずる麻酔を用いる手術を実施し、当該疾病に係る治療を継続している状態	（省略）	－

特定患者除外規定適応患者のレセプトは、毎月何枚で診療報酬平均単価は1日いくらか、年間どのくらいの額となっているかを公表して頂きたい。

平均在院日数の計算対象としない患者

（高齢者関係）

- 特殊疾患入院医療管理料
- 回復期リハビリテーション病棟入院料1及び2
- 亜急性期入院医療管理料1及び2
- 特殊疾患病棟入院料
- 緩和ケア病棟入院料
- 一般病棟に入院した日から換算して90日を越えて入院している後期高齢者であって、厚生労働大臣の定める状態等にある患者（特定患者から除かれる患者）

一般病床の平均在院日数に算定しなくてもよい病床もすべて入れて算定した、訂正平均在院日数を出して欲しい。

一般病床は、必ずしも急性期病床ではない！

↓

まず一般病床の中の実質慢性期高齢患者を整理して、慢性期病床に包含することから始まる。

↓

急性期病院の平均在院日数を20日から10日に短縮させるなら、それを受ける慢性期病床は2倍必要

医療療養病床の役割

- 救急及び高度急性期医療の継承
- 高度慢性期病床
- 亜急性期病床の療養病床への適応
- 回復期リハ病床
- 維持期慢性期病床
- 地域医療支援センター機能
- 在宅連携

日本慢性期医療協会（日本療養病床協会）療養病床入院患者の状態調査　集計結果

介護療養型医療施設の患者状態

実施：2008年5月

対象：日本療養病床協会会員739病院

回答数(n)	287

1．4月30日現在、介護療養病床に入院している患者の平均要介護度

	平均
平均要介護度	4．3

（※回答施設数 n＝283）

介護療養型医療施設の患者状態

2．4月30日現在、介護療養病床に入院している患者について、4月1ヶ月間に1日でも下記の症状となった患者の人数

	合計（人）
4月30日現在入院患者数	23,174人

（※回答施設数 n=286）

	合計（人）	現在入院患者数に占める割合（%）
① 経管栄養	8,263	35.7
② 気管切開	473	2.0
③ 喀痰吸引	4,833	20.9
④ 膀胱カテーテル	2,171	9.4
⑤ 褥瘡処置	1,419	6.1
⑥ 酸素療法	929	4.0
⑦ 疼痛管理	164	0.7
⑧ 人工透析	41	0.2
⑨ 人工肛門	179	0.8
⑩ 中心静脈栄養（IVH）	870	1.3
⑪ モニター測定（心拍・血圧・酸素飽和度）	290	3.8
⑫ ①～⑪のどれでもない	11,061	47.7

医療療養病床の患者状態

	医療区分1が入院患者に占める割合（%）					
	全体	15%未満	～25%未満	～35%未満	～50%未満	50%以上
4月30日現在入院患者数	27,336	7,334	5,654	5,971	5,810	2,587

・4月30日現在、医療療養病床に入院している患者について、4月1ヶ月間に1日でも下記の症状となった患者の割合　（複数回答）

	医療区分1が入院患者に占める割合（%）					
	全体平均	15%未満	～25%未満	～35%未満	～50%未満	50%以上
① 経管栄養	37.3	45.0	39.2	36.1	32.6	25.2
② 気管切開	10.8	17.0	10.8	8.3	7.9	6.0
③ 喀痰吸引	33.2	42.2	36.9	29.2	27.7	20.9
④ 膀胱カテーテル	16.2	19.0	16.3	16.0	14.0	14.0
⑤ 褥瘡処置	10.4	11.1	11.9	11.2	8.5	7.1
⑥ 酸素療法	15.1	20.1	16.1	12.3	12.3	11.8
⑦ 疼痛管理	1.3	1.9	1.4	1.3	0.8	1.2
⑧ 人工透析	2.5	3.5	1.5	4.2	1.2	0.5
⑨ 人工肛門	0.8	0.8	0.8	0.9	0.7	0.7
⑩ 中心静脈栄養（IVH）	7.5	8.0	7.5	7.9	6.3	7.6
⑪ モニター測定（心拍・血圧・酸素飽和度）	8.2	8.5	8.8	8.0	4.4	11.7
⑫ ①～⑪のどれでもない	35.4	26.5	33.0	36.1	42.1	50.2

医療療養病床には、大変重度な患者が多く入院している。
ICUと類似化していると言える。

違いは、疾病に罹患してからの期間である。

医療療養病床は、患者の状態像によって医療区分1～3に分類される。最も状態が「軽い」と判断されている医療区分1を分類する試案を日本慢性期医療協会が作成。

医療区分1の分類

【医療区分1－5】
- 意識障害(JCS100以上)
- 悪性ターミナル(余命1ヶ月)以上
- 肝不全(腹水高度、NH4Cl120mg／dl)
- CKD(クレアチニン6mg／dl以上)
- 頻尿重複発作
- 低栄養(経管栄養)
- 喀痰吸引(7回／日以下)
- 全身手術後1ヶ月以内
- その他の感染症(CRP5以上、顆粒球減少、ウイルス性など)
- 胸水、心嚢液貯留
- 妄想、幻覚
- 錯体外路症状(重度)
- 認知度(M)
- 自殺企図
- 難治高血圧
  (治療にもかかわらず日中最高血圧180mmHg以上を呈する例)
- 心不全(高度非代償性)
- SAB、AVB(Ⅲ度)SSS
- 徐脈(40以下)RonT、af、(徐500／min以上)
- 脱水(BUN50mg／dl以上)
- 低栄養(Alb2．5g／dl以下)
- Hb7g／dl以下
- BNP(1000以上)
- 血糖(随時血糖200mg／dl以上、HbA1c8以上)

【医療区分1－4】
- 意識障害(JCS30以上)
- 肝不全(腹水高度、NH4Cl100mg／dl以上)
- CKD(クレアチニン4mg／dl以上)
- 認知度(Ⅳ)
- 脱水(BUN40mg／dl以上)
- 低栄養(Alb3g／dl以下)
- Hb8g／dl以下
- BNP(500以上)
- 血糖(随時血糖150mg／dl以上、HbA1c7以上)

【医療区分1－3】
- 意識障害(JCS20、10)
- 悪性ターミナル(余命6ヶ月)
- 認知度(Ⅲ)
- 脱水(BUN30mg／dl以上)
- 低栄養(Alb3．5g／dl以下)
- Hb9g／dl以下
- BNP(100以上)

【医療区分1－2】
- 区分1－3、1－4、1－5、以外でADL区分3の人

【医療区分1－1】
- 区分1－3、1－4、1－5以外でADL区分1、2の人

医療保険療養病床入院患者(医療区分1)の状態調査
－重症化指数－

※平成18年8月の各状態像が入院患者に対して占める割合を100とした場合、平成20年8月の同割合の変化を重度化指数として表示する。

(1)2つの大分類

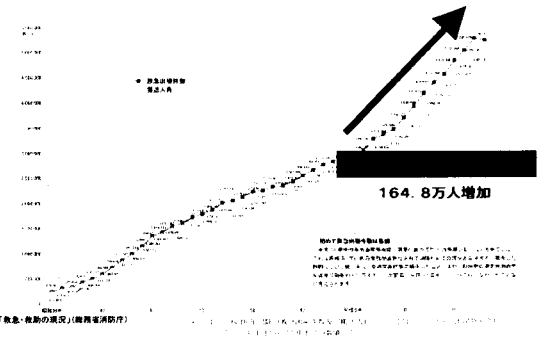
	平成18年度8月(n=2,625)		平成20年度8月(n=2,841)		重度化指数※
医療区分1－3～1－5	3,506	133.6%	4,997	175.9%	132
医療区分1－1～1－2	1,182	45.0%	1,405	49.5%	110

(2)群別

	平成18年度8月(n=2,625)		平成20年度8月(n=2,841)		重度化指数※
医療区分1－5	1,585	60.4%	2,424	85.3%	141
医療区分1－4	733	27.9%	969	34.1%	122
医療区分1－3	1,188	45.3%	1,604	56.5%	125
医療区分1－2	389	14.8%	473	16.6%	112
医療区分1－1	793	30.2%	932	32.8	109

※医療区分1－5は、2年間で約1．4倍となり、入院患者の重度化が進んでいることがわかる。

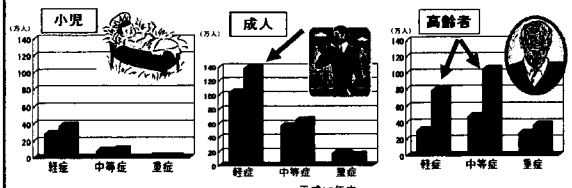
救急出動件数及び搬送人員の推移



「救急・救助の現況」(総務省消防庁)

平成20年10月11日「医療保険行政の現状と展望」厚生労働省保険局　医療課長　佐藤敏信氏の資料より引用

10年間の救急搬送人員の変化(年齢・重症度別)



平成8年中

年齢	小児	成人	高齢者
重症	2．2万人	18．3万人	27．5万人
中等症	8．7万人	57．2万人	47．6万人
軽症	28．4万人	103．6万人	30．8万人

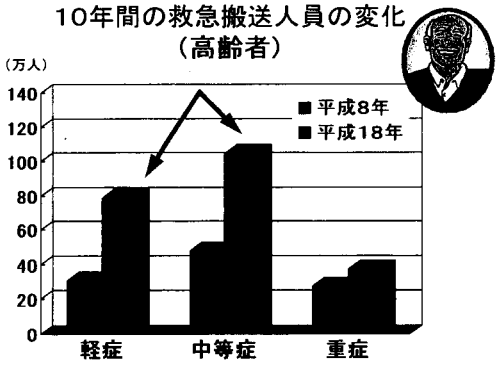
平成18年中

年齢	小児(16歳未満)	成人(16歳～64歳)	高齢者(65歳以上)
重症	1．6万人 0．6万人減 －27%	16．6万人 2．8万人減 －16%	37．2万人 9．7万人増 +35%
中等症	10．2万人 1．7万人増 +19%	65．2万人 8．0万人増 +14%	70．4万人 +22．8万人増 +119%
軽症	37．8万人 9．4万人増 +33%	138．1万人 34．5万人増 +33%	78．8万人 48．0万人 +158%

「救急・救助の現況」(総務省消防庁)のデータを基に分析したもの

平成20年10月11日「医療保険行政の現状と展望」厚生労働省保険局 医療課長 佐藤敏信氏の資料より引用

10年間の救急搬送人員の変化
(高齢者)



「救急・救助の現況」(総務省消防庁)のデータを基に分析したもの

平成20年10月11日「医療保険行政の現状と展望」厚生労働省保険局 医療課長 佐藤敏信氏の資料より引用

救急搬送において受入に至らなかった理由

○ 救急搬送において受入に至らなかった理由・1として、以下の項目が挙げられている。

表1．受入に至らなかった理由ごとの件数 (医療機関の区分によらず集計したもの)

1	2	3	4	5	6	7
処置困難	[redacted]	手術中・患者対応中	専門外	医師不在	初診(かかりつけ医なし)	理由不明及びその他
22．9%		21．0%	10．4%	3．5%	0．2%	19．7%

表2．第三次救急医療機関に限ったもの・2

2	3	1
[redacted]	手術中・患者対応中	処置困難
	34．5%	12．7%

表3．第二次救急医療機関以下に限ったもの・2

1	3	2
処置困難	手術中・患者対応中	[redacted]
39．0%	16．2%	

※ いずれも、消防隊員が、医療機関に依頼したものの受入に至らなかった事案において、医療機関との電話でのやりとりの中で聞き取った内容を、消防側の判断で、1～7に割り振り集計したもの

・1 救急搬送における医療機関の受入状況等実態調査(総務省消防庁 平成20年3月11日)
　平成19年中に行われた救急搬送のうち、重症以上傷病者搬送人員530,571人から無相談搬送を除いた119,04件について調査した結果
・2 実施調査のうち集計可能な宮城県、埼玉県、東京都、静岡県、愛知県、広島県、福岡県における数値

平成20年10月11日「医療保険行政の現状と展望」厚生労働省保険局 医療課長 佐藤敏信氏の資料より引用

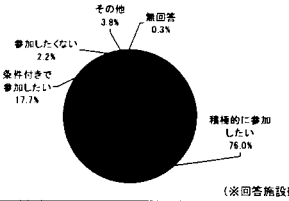
日本慢性期医療協会

療養病床を対象とした急性期医療との連携に関するアンケート調査

実施時期 ： 平成20年5月～6月
調査対象 ： 日本慢性期医療協会会員740病院
回　　答 ： 介護療養型医療施設 287病院
　　医療療養病床 366病院

救急医療と療養病床との連携に関するアンケート調査より

1. もし、あなたの医療圏で2次救急・3次救急と療養型病院との間に連携システムを作る事になれば参加されますか？

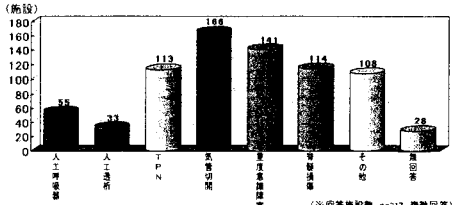


（※回答施設数 n=317）

	回答病院数	割合(%)
積極的に参加したい	241	76.0
条件付きで参加したい	56	17.7
参加したくない	7	2.2
その他	12	3.8
無回答	1	0.3
合計	317	100.0

救急医療と療養病床との連携に関するアンケート調査より

2. どのような患者を積極的に受け入れたいですか？



（※回答施設数 n=317、複数回答）

	回答病院数	割合(%)
人工呼吸器装着	55	17.4
人工透析患者	33	10.4
TPN	113	35.6
気管切開	166	52.4
重度意識障害	141	44.5
脊髄損傷	114	36.0
その他	108	34.1
無回答	28	8.8

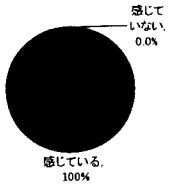
日本慢性期医療協会

3次救急指定病院を対象とした療養病床との連携に関するアンケート集計調査

実施時期 ： 平成20年8月
調査対象 ： 3次救急指定202病院
回　　答 ： 73病院

3次救急指定病院を対象とした療養病床との連携に関するアンケート集計調査

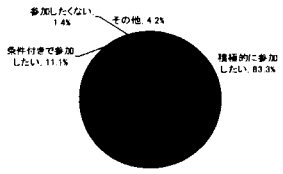
1. 今後、療養病床との連携を強める必要を感じていますか。



	回答病院数	割合(%)
感じている	71	100.0
感じていない	0	0.0
合計	71	100.0

3次救急指定病院を対象とした療養病床との連携に関するアンケート集計調査より

2. もし、あなたの地域で急性期病院と療養病床との間に連携システムを作ることになれば、参加されますか。



	回答病院数	割合(%)
積極的に参加したい	60	83.3
条件付で参加したい	8	11.1
参加したくない	1	1.4
その他	3	4.2
合計	72	100.0

3. 救急外来患者のうち療養病床での治療が可能と考えられる疾患を選んで下さい。(n＝70)(複数回答)

	病院数	%
誤嚥性肺炎	39	55.7
腰椎圧迫骨折(保存的治療)	63	90.0
脱水	54	77.1
尿路感染症	49	70.0
終末期を迎え介護施設から搬送されてきた患者	60	85.7
その他	5	7.1

4. 高齢者が誤嚥性肺炎などで救急外来に搬送された場合、救急医療側の判断で療養病床に入院を委託することについてはどのようにお考えですか。

	病院数	%
できる範囲で積極的に行うべき	50	71.4
療養病床の人員、設備の点から行うべきでない	7	10.0
受託できる範囲に療養病床がない	6	8.6
その他	7	10.0
計	70	100.0

5. 介護保険施設(老健、特養)あるいは在宅療養中の要介護認定者の方に急性期医療が必要になった場合、その一部を療養病床が担うことについてはどのようにお考えですか。

	病院数	%
できる範囲で積極的に行うべき	54	80.6
療養病床の人員、設備の点から行うべきでない	9	13.4
受託できる範囲に療養病床がない	2	3.0
その他	2	3.0
計	67	100.0

〔東京〕3次救急病院と療養病床との連携

モデル事業(平成20年12月～平成21年4月)

3次救急　1病院(東京都立府中病院)

＋

療養病床　8病院

↓

平成21年5月20日

東京都療養型病院研究会の活動としてスタート

3次救急　3病院(東京都立府中病院、杏林大学医学部附属病院、武蔵野赤十字病院)

＋

療養病床　41病院(事務局：東京都療養型病院研究会)

〔大阪〕3次救急病院と療養病床との連携

3次救急病院　10病院

＋

療養病床　　24病院(コーディネーター：平成記念病院)

連携実績 (H20.12.10～H21.5.31)

- 連携紹介数　55例
  - 男性　36名、女性　19名
  - 19才～99才(平均70.4才)
  - 急性期例　11例(転院前死亡 1)　慢性期例　43例　　その他　1例
  - 紹介患者の依頼までの在院日数　0～143日(平均19.4日)

    3週間以上入院例　18例

〔大阪〕3次救急病院と療養病床との連携

連携実績 (H20.12.10～H21.5.31)

- 転院調整可能例　39例(71%)

  (内　2例　転院直前に死亡、1例　転院直前急変)

  急性期例　8例(転院せず 2)　慢性期例　30例　他　1例
- 転院日程調整中　3例(5%)
- 不調例　13例(24%)
  - 不調理由
    - 整形外科的処置のため
    - 家族希望
    - 費用面
    - 満床・地域性
    - 転院希望中断
    - 徘徊・暴力行為　など

〔大阪〕3次救急病院と療養病床との連携

□ コーディネーターが受入を問い合わせた件数：
1～9施設(平均 2.4施設)

■ 紹介から転院までに要した日数：0日～11日
(平均4.0日)

□ 紹介当日転院例　5例(急性期例 4/6例＋その他1例)

医療・介護負担対照表

2009.3月

	名　称	点数（点／日）	10日間入院(円)	20日間入院(円)	10日間入院した場合の1日平均(円)
高度急性期	救命救急入院料2	8,890～11,200	1,008,300	1,383,900（ただし14日が限度）	100,830
	特定集中治療管理料	7,330～8,760	833,100	1,126,300（ただし14日が限度）	83,310
	ﾊｲｹｱﾕﾆｯﾄ入院医療管理料	3,700	370,000	740,000	37,000
一般病棟	7 1入院基本料	1,555～1,983	198,300	382,440	19,830
	10 1入院基本料	1,300～1,728	172,800	331,440	17,280
	13 1入院基本料	1,092～1,520	152,000	289,840	15,200
	15 1入院基本料	954～1,382	138,200	262,240	13,820
亜急性期	亜急性期入院医療管理料	2,050	205,000	410,000	20,500
回復期	回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟入院料	1,595～1,740	159,500～174,000	319,000～348,000	16,675
医療療養	療養病棟入院基本料(A～E)	750～1,709	75,000～170,900	150,000～341,800	12,295
介護保険施設サービス	介護療養型医療施設（施設サービス費(Ⅰ)従来型個室・多床室）	683～1,334	68,300～133,400	136,600～266,800	10,085
	介護療養型老人保健施設（施設サービス費(Ⅰ)従来型個室・多床室）	735～1,164	73,500～116,400	147,000～232,800	9,495
	介護老人保健施設（施設サービス費(Ⅰ)従来型個室・多床室）	734～1,022	73,400～102,200	146,800～204,400	8,780
	介護老人福祉施設（施設サービス費(Ⅰ)従来型個室・多床室）	589～933	58,900～93,300	117,800～186,600	7,610

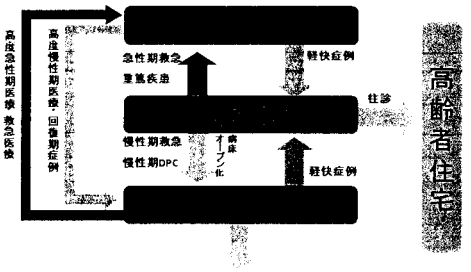
※ただし、単純平均であり、基本部分のみで出来高は含まない。

〔大阪〕3次救急病院と療養病床との連携

紹介患者状態(n=55)

- 人工呼吸器装着　10例(18.2%)
- 気管内挿管　6例(10.9%)
- 気管切開　20例(36.4%)
- 酸素投与　25例(45.5%)
- 2～3時間ごとの吸引　32例(58.2%)
- 認知症　or　精神疾患　8例(12.7%)

地域連携「徳島方式」



介護保険施設

地域連携「徳島方式」のポイント

連携パターン

①『開放型病床連携』

②『在宅療養支援診療所連携』

③『緊急入院連携』

全てに連携するか、いずれかに連携するかは開業医が自由に選択できる

日本慢性期医療協会　医療保険療養病床に関するアンケート

実施　平成21年4月

1、病床数について

総病床数

	施設数	%
0～99床	32	20.9
100～199床	73	47.7
200～299床	26	17.0
300～399床	13	8.5
400～499床	3	2.0
500床以上	6	3.9
全体	153	100.0

平均総病床数 184.1床

病床数の内訳

	病床数	%
医療療養	12992	46.1
介護療養	6582	23.3
精神	1980	7.0
一般病床	3982	14.1
回復期リハ	2280	8.1
その他	400	1.4
合計	28186	100.0

医療療養病床（療養病棟入院基本料）の病床規模

	施設数	%
0～49床	49	32.0
50～99床	55	35.9
100～149床	29	19.0
150～199床	9	5.9
200～249床	7	4.6
250床以上	4	2.6
全体	153	100.0

平均病床数 84.8床

3．医療区分３および２について述べ入院患者数、期間：平成20年10月より平成21年3月まで（6ヶ月間）

医療保険療養病床入院患者延べ数

	患者数	%
医療保険療養病床	210474M	100.0
医療区分3	583700	28.0
そのうち3項目以上合併（超重症）	44747	2.1
医療区分2	983240	45.4
そのうち3項目以上合併（準超重症）	94219	4.3

※医療区分2・3が71.4%を占める
超重症・準超重症の患者は6.4%である

4．医療療養病床患者の退院先（平成20年10月より平成21年3月まで）

		患者数	%		100床あたり(人)	
医療療養病床	一般病床（他院）	999	19.5	11.0	13.7	7.7
	一般病床（自宅）	422		4.7		3.3
	療養型リハビリ病棟（他院）	11		0.1		0.1
	療養型リハビリ病棟（自宅）	223		2.5		1.7
	医療療養病床（他院）	112		1.2		0.9
介護療養病院	介護療養病床（他院）	20	18.7	0.2	13.1	0.2
	介護療養病床（自宅）	525		5.8		4.0
	老人保健施設	685		7.6		5.3
	特別養護老人ホーム	461		5.1		3.9
在宅	グループホーム、小規模多機能型居宅等	146	23.8	1.6	18.5	1.1
	自宅	2090		22.1		13.4
死亡退院		3313		36.7		25.8
その他（有料ホーム、精神病床など）		121		1.3		0.9
合計		9038		100.0		69.6

※退院者のうち、介護保険施設へ18.7%、在宅へ23.8%となっており、計42.5%が軽快退院したものと思われる。死亡退院は36.7%を占め、看取りの機能も大きい

6．新規入院患者の入院月平均医療区分別の転帰（平成20年10月～平成21年3月）

入院月平均医療区分2.07

単位：人

		入院月の平均医療区分 1（1.0～1.4）	2（1.5～2.4）	3（2.5～3）	合計
入院から退院まで	1ヶ月間	351	608	221	1178
	2ヶ月間	264	488	225	977
	3ヶ月間	136	185	80	411
	4ヶ月間	55	100	37	192
	5ヶ月間	20	41	12	73
	6ヶ月間	8	18	3	28
	計	832	1449	578	2859
入院継続中	1ヶ月間	212	477	306	995
	2ヶ月間	149	332	198	679
	3ヶ月間	117	299	158	572
	4ヶ月間	93	264	143	500
	5ヶ月間	80	217	106	403
	6ヶ月間	99	177	123	399
	計	750	1768	1032	3548
入院から死亡まで	1ヶ月間	10	51	253	314
	2ヶ月間	28	134	229	389
	3ヶ月間	16	60	107	183
	4ヶ月間	14	38	44	96
	5ヶ月間	5	22	22	49
	6ヶ月間	1	17	9	27
	計	72	322	664	1059
合計		1654	3537	2274	7465

単位：%

		入院月の平均医療区分 1（1.0～1.4）	2（1.5～2.4）	3（2.5～3）	合計
入院から退院まで	1ヶ月間	21.2	17.1	9.7	15.8
	2ヶ月間	16.0	13.8	9.9	13.1
	3ヶ月間	8.2	5.5	3.5	5.5
	4ヶ月間	3.3	2.8	1.6	2.6
	5ヶ月間	1.2	1.2	0.5	1.0
	6ヶ月間	0.4	0.5	0.1	0.4
	計	50.3	41.0	25.4	38.3
入院継続中	1ヶ月間	12.8	13.5	13.5	13.3
	2ヶ月間	9.0	9.4	8.7	9.1
	3ヶ月間	7.1	8.5	6.9	7.7
	4ヶ月間	5.6	7.5	6.3	6.7
	5ヶ月間	4.8	6.1	4.7	5.4
	6ヶ月間	6.0	5.0	5.4	5.3
	計	45.3	49.9	45.4	47.5
入院から死亡まで	1ヶ月間	0.6	1.4	11.1	4.2
	2ヶ月間	1.6	3.8	10.1	5.2
	3ヶ月間	1.0	1.7	4.7	2.5
	4ヶ月間	0.8	1.1	1.9	1.3
	5ヶ月間	0.3	0.6	1.0	0.7
	6ヶ月間	0.1	0.5	0.4	0.4
	計	4.4	9.1	29.2	14.2
合計		100.0	100.0	100.0	100.0

※医療区分1で入院した患者は50.3%が退院している。医療区分が高くなるほど死亡退院が増加している

7．転帰別の医療区分平均値

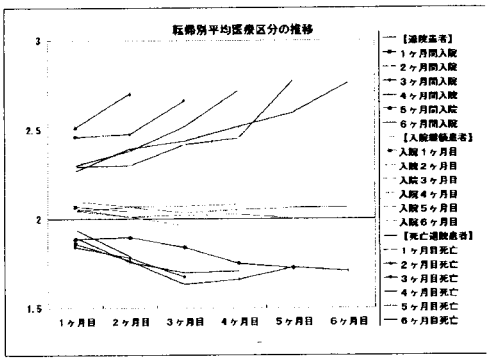
		1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目	4ヶ月目	5ヶ月目	6ヶ月目
入院から退院まで	1ヶ月間	1.88					
	2ヶ月間	1.94	1.79				
	3ヶ月間	1.84	1.78	1.67			
	4ヶ月間	1.90	1.76	1.70	1.71		
	5ヶ月間	1.89	1.90	1.84	1.75	1.72	
	6ヶ月間	1.88	1.76	1.83	1.68	1.73	1.71
入院継続中	1ヶ月間	2.07					
	2ヶ月間	2.07	2.04				
	3ヶ月間	2.05	2.01	1.98			
	4ヶ月間	2.10	2.07	2.07	2.08		
	5ヶ月間	2.08	2.01	2.02	2.02	2.00	
	6ヶ月間	2.05	2.07	2.03	2.05	2.04	2.08
入院から死亡まで	1ヶ月間	2.77					
	2ヶ月間	2.51	2.70				
	3ヶ月間	2.46	2.48	2.66			
	4ヶ月間	2.30	2.38	2.52	2.72		
	5ヶ月間	2.30	2.30	2.42	2.45	2.78	
	6ヶ月間	2.27	2.40	2.44	2.52	2.60	2.76

平均医療区分

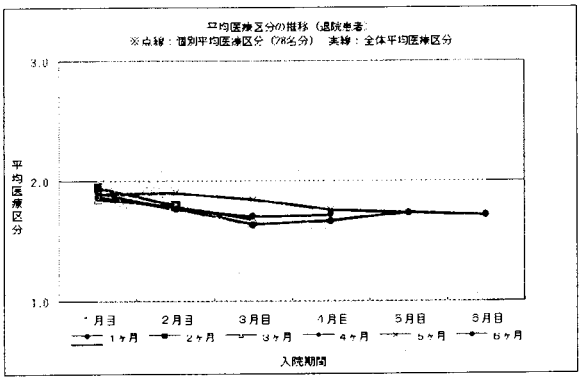
（退院）
- 入院時 1.88
- 退院時 1.72

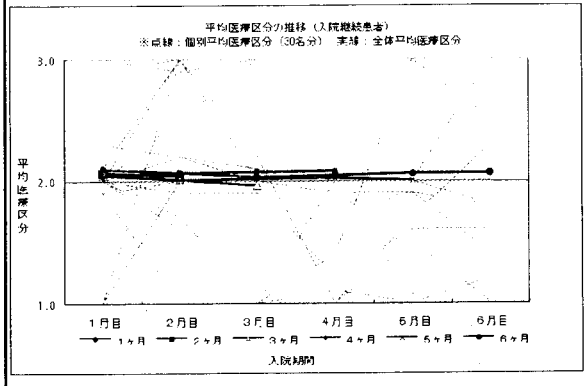
（入院継続）
- 入院時 2.07
- 現在 2.03

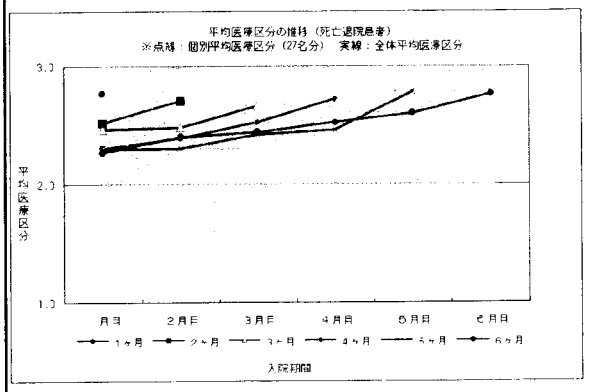
（死亡）
- 入院時 2.44
- 退院時 2.72



死亡退院は入院時の医療区分も高く、死亡時はさらに状態が悪化している。入院継続者は医療区分2のあたりを横バイ。退院患者は入院時の医療区分も低く、状態も軽快方向にある。







8. 医療保険療養病床に関するアンケート　自由回答一覧

問3の医療区分3及び2についての項目の、医療区分3および2の患者のうち項目の合併がある場合は、加算点数等が算定できるようになるべきだと思います。
医療区分の見直しが必要(もっときめ細かい評価基準が必要)。
医療区分の基準が曖昧である。
医療区分1の適正化(内容の見直し)が必要であると考える。
時々褥瘡発作があり薬物コントロールがつかない人等は、医療区分2か3に含めてよいかと考えます。
問3の医療区分3(2)の各項目のうち3つ以上合併している患者数とありますが、3つ以上合併していると点数を加算するということはできないでしょうか？3つ以上合併していると言うことは、それくらい患者さんに時間をかけているということだと思いますが･･･。
医療区分・算定月数制限等、レセプト業務が非常に煩雑である。状態が悪いと点数が高く、改善されると低くなる。その労力(看護師)に対して矛盾している。大幅な見直しを望む。
医療区分の算定基準に、日数に制限のあるものがあるが(24時間接続点滴等)、患者の状態は全く変化していないにもかかわらず、評価できないシステムに疑問がある。このように、療養病床の再編において医療を提供する病院としての療養病床が求められる動向の中、より細分化され効率的な診療報酬のシステムの構築を強く希望する。
医療区分の目安として、そのことで治療や処置が必要な事柄は区分を上げて欲しいと思います。
実際、医療を必要とするケースでも現在の区分内容に該当しない場合もあり、もっと広く区分を拡大する必要性があると思う。
医療区分分けには4～5項目該当者でも、重き項目1～2つでの処理(保険請求)が多いと思います。
中心静脈ルートを確保している方も、末梢ルート確保している方も「1.24時間接続して点滴をしている状態」の項目で7日間という期間測定でチェックしています。手技についての違いや材料費など、考慮していただくことはできないのでしょうか？
医療区分の分け方が、医療・看護の必要度と一致していない。

チーム医療の評価

診療報酬の入院基本料は、主に
医師と看護師の数によって決められている。

↓

急性期・慢性期病床にかかわらず、病棟に
コメディカルを専従に配置した場合の評価が必要

チーム医療

各職種病棟業務

薬剤師 ･･･	服薬指導、薬剤管理、ミキシング、薬剤投与
管理栄養士 ･･･	個別栄養管理、食事指導、摂食介助
介護福祉士 ･･･	介護全般、環境整備、ADL改善
臨床検査技師 ･･･	検査データ管理、感染サーベイ、検査計画、採血、生理検査
臨床工学技士 ･･･	人工呼吸器管理、各種医療機器管理
社会福祉士 ･･･	退院促進、地域連携、医療相談
歯科衛生士 ･･･	口腔管理、歯科治療連携
PT・OT ･･･	トイレ誘導、ADL訓練、移乗・移動訓練、社会復帰訓練
ST ･･･	食事介助、嚥下訓練、構音訓練、嚥下機能測定
診療情報管理士 ･･･	電子カルテ管理、医療記録管理、書類管理
医療事務 ･･･	医療請求、医師補助業務、各種書類管理

日本慢性期医療協会　チーム医療に関するアンケート調査

実施：平成21年4月（調査対象：会員818施設　回答施設数：197施設）

1. 病床種別と病床数

	合計	平均
総病床数(床)	37045	188.0

		回答施設数(施設)	病床数合計(床)	全病床数に占める割合(%)
医療保険	一般病床	73	5,852	15.8
	①特殊疾患1	7	428	1.2
	②特殊疾患2	0	0	0.0
	③回復期リハ病棟1	8	494	1.3
	④回復期リハ病棟2	0	0	0.0
	⑤障害者施設等入院基本料	20	1,190	3.2
	⑥緩和ケア	3	55	0.1
	⑦上記以外の一般病床	55	3,685	9.9
	療養病床	175	17,375	46.9
	⑧療養病棟入院基本料	162	14,310	38.6
	⑨回復期リハ病棟1	38	2,177	5.9
	⑩回復期リハ病棟2	13	609	1.6
	⑪介護保険移行療養病棟	2	74	0.2
	⑫上記以外の療養病床	3	205	0.6
	精神病床	18	3,625	9.8
	⑬認知症病棟	12	1,034	2.8
	⑭特殊疾患	3	180	0.5
	⑮上記以外の精神病床	13	2,411	6.5
	その他の病床	2	62	0.2
介護保険	介護保険病床	110	10,131	27.3
	⑯介護療養型医療施設	108	9,963	26.9
	⑰老人性認知症疾患療養病棟	2	148	0.4
	⑱経過型介護療養型医療施設	0	0	0
合計		197	37,045	100.0

2. 看護・介護職以外に雇用している職種

	常勤＋非常勤（常勤換算人数）	100床あたり（人）
医師	1,678	4.5
理学療法士	1,595	4.3
作業療法士	1,127	3.0
言語聴覚士	432	1.2
薬剤師	640	1.7
管理栄養士	421	1.1
栄養士	149	0.4
臨床検査技師	396	1.1
診療放射線技師	375	1.0
社会福祉士	313	0.8
精神保健福祉士	99	0.3
臨床心理士	35	0.1
医療クラーク	234	0.6
歯科衛生士	100	0.3
音楽療法士	11	0.0
園芸療法士	4	0.0
臨床工学技士	121	0.3
視能訓練士	3	0.0

3. コメディカル職員の病棟への配置状況（複数回答）

3-1 病床種別からみたコメディカル職員の配置

		全病床数（床）	配置病床数(床)	各病床種別に占める割合(%)
医療保険	一般病床	5,852	4,323	73.9
	①特殊疾患1	428	428	100.0
	②特殊疾患2	0	0	0.0
	③回復期リハ病棟1	494	427	86.4
	④回復期リハ病棟2	0	0	0.0
	⑤障害者施設等入院基本料	1,190	939	78.9
	⑥緩和ケア	55	35	63.6
	⑦上記以外の一般病床	3,685	2,494	67.7
	療養病床	17,375	14,397	82.9
	⑧療養病棟入院基本料	14,310	11,737	82.0
	⑨回復期リハ病棟1	2,177	1,977	90.8
	⑩回復期リハ病棟2	609	491	80.6
	⑪介護保険移行準備病棟	74	74	100.0
	⑫上記以外の療養病床	205	118	57.6
	精神病床	3,625	3,001	82.8
	⑬認知症病棟	1,034	834	80.7
	⑭特殊疾患	180	180	100.0
	⑮上記以外の精神病床	2,411	1,987	82.4
介護保険	介護保険病床	10,131	6,278	62.0
	⑯介護療養型医療施設	9,983	6,130	61.4
	⑰老人性認知症疾患療養病棟	148	148	100.0
	⑱経過型介護療養型医療施設	0	0	0.0
合計		37,045	27,999	75.6

※どの病床種別においても、50%以上の病棟にコメディカル職員が配置されている。

【職員配置の実数】

3-2 専従人数（常勤換算数）

		合計	薬剤師	臨床検査技師	管理栄養士	栄養士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	社会福祉士	精神保健福祉士	臨床心理士	歯科衛生士	医療クラーク	臨床工学技士	その他
医療保険	一般病床	287.4	4.0	0.0	5.0	0.0	98.1	60.0	37.0	9.0	0.0	0.0	2.0	38.0	0.0	38.3
	特殊疾患1	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	回復期リハ病棟1	89.0	1.0	0.0	3.0	0.0	37.0	24.0	15.0	5.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	1.0
	障害者施設等入院基本料	36.0	2.0	0.0	0.0	0.0	15.0	11.0	5.0	1.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	緩和ケア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	上記以外の一般病床	159.4	1.0	0.0	2.0	0.0	44.1	25.0	17.0	2.0	0.0	0.0	2.0	31.0	0.0	35.3
	療養病床	1019.4	58.5	20.4	37.6	19.4	343.0	249.8	72.1	50.1	5.4	4.4	12.9	61.8	7.0	79.2
	療養病棟入院基本料	536.4	58.5	20.4	34.8	17.4	135.0	89.8	28.1	28.1	5.4	3.4	12.3	51.0	7.0	49.4
	回復期リハ病棟1	422.1	0.0	0.0	3.0	2.0	179.0	141.0	38.0	19.0	0.0	1.0	0.0	9.3	0.0	29.8
	回復期リハ病棟2	60.9	0.0	0.0	0.0	0.0	29.0	19.0	8.0	3.0	0.0	0.0	0.8	1.3	0.0	0.0
	介護保険移行準備病棟	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	上記以外の療養病床	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	精神病床	98.9	10.0	1.0	3.0	1.0	4.0	39.0	1.0	1.0	28.0	1.0	1.0	6.0	0.0	0.0
	認知症病棟	40.0	2.0	0.0	1.0	0.0	1.0	18.0	0.0	0.0	16.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0
	特殊疾患	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	上記以外の精神病床	56.0	7.0	1.0	2.0	1.0	3.0	20.0	1.0	1.0	12.0	0.0	1.0	7.0	0.0	0.0
介護保険	介護保険病床	177.1	24.8	8.8	14.3	4.6	35.8	35.7	16.9	17.6	3.4	1.6	1.0	13.5	0.0	1.0
	介護療養型医療施設	162.3	23.8	8.6	13.3	3.6	34.8	28.7	16.9	17.6	0.6	0.6	0.0	13.5	0.0	1.0
	老人性認知症疾患療養病棟	14.8	1.0	0.0	1.0	1.0	1.0	6.0	0.0	0.0	2.8	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0
合計		1581.9	95.3	28.0	80.1	25.0	478.9	364.3	127.0	78.0	36.8	7.0	16.9	121.1	7.0	116.5

※病棟専従として計1581.9人のコメディカル職が配置されている。リハビリスタッフ、医療クラーク、薬剤師、ソーシャルワーカーの専従が多い。

3-3 兼任人数（常勤換算数）

		合計	薬剤師	臨床検査技師	管理栄養士	栄養士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	社会福祉士	精神保健福祉士	臨床心理士	歯科衛生士	医療クラーク	臨床工学技士	その他
医療保険	一般病床	979.3	119.0	83.0	65.9	12.6	282.5	217.6	92.2	40.5	10.0	2.6	12.7	25.0	14.3	1.5
	特殊疾患1	58.5	6.0	4.5	8.5	0.0	16.0	11.0	5.0	5.0	0.0	0.5	2.0	2.0	0.0	0.0
	回復期リハ病棟1	60.0	9.0	4.0	5.5	0.0	14.0	14.0	7.0	1.5	0.0	0.0	3.0	1.0	1.0	0.0
	障害者施設等入院基本料	298.2	28.0	25.0	14.0	2.0	83.0	89.0	37.0	7.0	1.0	0.0	0.7	8.0	3.5	0.0
	緩和ケア	4.2	1.8	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	上記以外の一般病床	558.4	74.2	48.5	39.8	10.8	169.5	103.8	43.2	28.0	9.0	2.0	7.0	14.0	9.8	1.5
	療養病床	2147.9	238.8	128.2	165.8	37.2	693.7	456.5	200.7	115.3	7.0	2.5	32.2	40.4	12.5	19.0
	療養病棟入院基本料	1402.6	183.0	87.6	124.2	29.2	444.6	266.5	123.1	81.8	6.0	2.0	21.3	25.4	11.5	14.5
	回復期リハ病棟1	519.0	52.2	28.5	23.7	8.0	170.1	136.8	59.6	19.5	1.0	0.0	9.1	10.0	1.0	2.5
	回復期リハ病棟2	212.3	18.7	13.1	16.0	0.0	74.0	49.2	18.0	14.0	0.0	0.5	1.8	4.0	0.0	2.0
	介護保険移行準備病棟	13.0	2.0	1.0	2.0	0.0	5.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	上記以外の療養病床	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
	精神病床	187.0	33.0	19.0	18.0	14.0	18.0	25.0	8.0	5.0	22.0	8.0	15.0	4.0	0.0	0.0
	認知症病棟	34.0	7.0	2.0	6.0	4.0	5.0	0.0	1.0	0.0	1.0	3.0	5.0	0.0	0.0	0.0
	特殊疾患	46.0	5.0	3.0	3.0	4.0	5.0	10.0	1.0	0.0	9.0	1.0	4.0	1.0	0.0	0.0
	上記以外の精神病床	107.0	21.0	14.0	9.0	8.0	8.0	15.0	4.0	5.0	12.0	4.0	6.0	3.0	0.0	0.0
介護保険	介護保険病床	701.2	71.2	47.3	70.5	12.2	197.9	137.4	65.8	42.7	11.0	2.0	17.2	13.0	8.0	7.0
	介護療養型医療施設	683.2	70.2	46.3	69.5	12.2	197.9	137.4	64.8	42.7	9.0	2.0	16.2	12.0	8.0	7.0
	老人性認知症疾患療養病棟	8.0	1.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0
合計		4015.4	460.0	277.5	320.3	76.0	1192.1	836.4	364.7	203.5	50.0	15.1	77.1	82.4	32.8	27.5

※兼任として病棟に配置されているコメディカル職員は4015.4人にのぼる。リハビリスタッフをはじめ、薬剤師、栄養士も多い。

4. チーム医療でリーダーを担っている職種（複数回答）（回答：194施設）

	施設数	%
医師	178	91.8
看護職員	155	79.9
管理栄養士	72	37.1
理学療法士	68	35.1
薬剤師	61	31.4
介護職員	40	20.6
社会福祉士	39	20.1
作業療法士	37	19.1
事務職員	37	19.1
言語聴覚士	24	12.4
臨床検査技師	23	11.9
ケアマネジャー	16	8.2
診療放射線技師	15	7.7
歯科衛生士	9	4.6
医療相談員	9	4.6
精神保健福祉士	7	3.6
医療クラーク	4	2.1
臨床工学技士	4	2.1
栄養士	3	1.5
臨床心理士	2	1.0
診療情報管理士	2	1.0

※チーム医療でリーダーを担うと回答したのは、医師、看護職員が圧倒的に多いが、それ以外の　職種の回答も多く、まさに多職種で患者の医療、ケアを行っていることが読み取れる。

5. どの職種を重点的に配置すれば、看護・介護職員の業務の負担軽減につながると思うか（複数回答）（回答：185施設）

	施設数	%
医療クラーク	105	56.8
理学療法士	79	42.7
薬剤師	70	37.8
作業療法士	65	35.1
言語聴覚士	50	27.0
歯科衛生士	46	24.9
医師	45	24.3
社会福祉士	39	21.1
介護福祉士	1	0.5
臨床検査技師	25	13.5
管理栄養士	24	13.0
臨床心理士	15	8.1
臨床工学技士	10	5.4
診療放射線技師	8	4.3
精神保健福祉士	7	3.8
音楽療法士	7	3.8
栄養士	6	3.2
園芸療法士	4	2.2

※看護・介護の負担軽減につながる職種として、　医療クラーク、リハビリスタッフ、薬剤師が上位にあげられている。

6. チームとしてどのような会議があるか（複数回答）（回答：195施設）

	施設数	%
感染症対策委員会	194	99.5
医療安全対策委員会	192	98.5
褥瘡委員会	187	95.9
症例カンファレンス	131	67.2
サービス担当者会議	115	59.0
NST	104	53.3
入退院判定会議	103	52.8
ターミナルカンファランス	46	23.6
排泄委員会	38	19.5
その他	67	34.4

※病院ではさまざまな会議が開催され、直接ケアのみでなく間接的ケアの時間も多い。

7. 会議の構成メンバーの職種について

7-1 全会議対象：参加職種について（複数回答）

	施設数	%
看護職員	1,116	93.0
医師	1,101	91.8
管理栄養士	761	63.4
薬剤師	745	62.1
介護職員	673	56.1
理学療法士	636	53.0
社会福祉士	380	31.7
作業療法士	368	30.7
臨床検査技師	320	26.7
言語聴覚士	253	21.1
診療放射線技師	212	17.7
栄養士	81	6.8
医療クラーク	68	5.7
精神保健福祉士	58	4.8
臨床工学技士	53	4.4
歯科衛生士	44	3.7
臨床心理士	16	1.3
音楽療法士	6	0.5
視能訓練士	5	0.4
園芸療法士	5	0.4

※会議が多職種で構成されていることが示されている。

7-2 各会議における参加職種（複数回答）

【施設数】

	合計（施設）	看護職員	医師	管理栄養士	薬剤師	介護職員	理学療法士	社会福祉士	作業療法士	臨床検査技師	言語聴覚士	診療放射線技師	栄養士	医療クラーク	精神保健福祉士	臨床工学技士	歯科衛生士	臨床心理士	音楽療法士	園芸療法士	視能訓練士	その他
感染症対策委員会	192	178	190	140	173	101	103	34	45	110	20	58	14	13	6	17	6	1	1	1	1	65
医療安全対策委員会	190	172	188	134	170	97	128	56	51	93	22	88	15	13	11	19	6	2	1	1	1	79
褥瘡委員会	185	176	178	148	123	102	83	19	33	35	18	15	15	9	3	4	3	0	0	0	0	43
症例カンファレンス	133	120	121	85	74	81	95	67	77	19	60	15	8	6	14	4	8	5	1	1	1	22
サービス担当者会議	114	104	89	63	43	89	75	56	51	8	32	9	5	8	6	1	6	1	0	0	0	41
NST	102	94	97	97	59	48	29	15	16	25	48	5	13	3	0	1	3	0	0	0	0	12
入退院判定会議	100	98	94	20	25	24	46	70	21	5	12	1	0	4	8	1	1	0	0	0	0	33
ターミナルカンファランス	48	44	48	23	21	32	28	25	22	7	15	6	3	4	2	3	3	1	2	1	1	10
倫理委員会	34	33	18	12	8	32	12	5	9	2	3	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	8

【割合】

単位 %

感染症対策委員会	100.0	92.7	99.0	72.9	90.1	52.6	53.6	17.7	23.4	57.3	10.4	30.2	7.3	6.8	3.1	8.9	3.1	0.5	0.5	0.5	0.5	33.9
医療安全対策委員会	100.0	90.5	98.9	70.5	89.5	51.1	67.4	29.5	26.8	48.9	11.6	46.3	7.9	6.8	5.8	10.0	3.2	1.1	0.5	0.5	0.5	41.6
褥瘡委員会	100.0	95.1	96.8	78.9	66.5	55.1	44.9	10.3	17.8	18.9	9.7	8.1	8.1	4.9	1.6	2.2	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	23.2
症例カンファレンス	100.0	90.2	91.0	63.9	55.6	60.9	71.4	50.4	57.9	14.3	45.1	11.3	4.5	4.5	10.5	3.0	6.0	3.8	0.8	0.8	0.8	16.5
サービス担当者会議	100.0	91.2	78.1	55.3	37.7	78.1	65.8	49.1	44.7	7.0	28.1	7.9	4.4	5.3	5.3	0.9	5.3	0.9	0.0	0.0	0.0	36.0
NST	100.0	92.2	95.1	95.1	57.8	47.1	28.4	14.7	15.7	24.5	47.1	4.9	12.7	2.9	0.0	1.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8
入退院判定会議	100.0	98.0	94.0	20.0	25.0	24.0	46.0	70.0	21.0	5.0	12.0	1.0	0.0	4.0	8.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.0
ターミナルカンファランス	100.0	91.7	100.0	47.9	43.8	66.7	58.2	52.1	45.8	14.6	31.3	12.5	6.3	8.3	4.2	6.3	6.3	2.1	4.2	2.1	2.1	20.8
倫理委員会	100.0	97.1	52.9	35.3	23.5	94.1	35.3	14.7	26.5	5.9	8.8	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5

8. 病棟看護業務の中で、どの職種がどのような業務を分担すれば、病棟看護業務の効率化につながると予想できるか（複数回答）

【上位3位までの合計（施設数）】

	全体	薬剤管理	ミキシング	薬剤投与	各種書類管理	環境・食事介助	口腔清拭	医師補助業務	トイレ誘導	医療記録管理	採血	検査データ管理	栄養管理	ADL訓練	介護全般	環境整備	退院促進連携	各種医療危機管理
薬剤師	119	62	51	38	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
医療クラーク	68	0	0	0	45	1	0	15	0	21	0	7	0	0	0	0	0	1
医師	13	0	0	7	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	3	0
歯科衛生士	34	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
管理栄養士	12	0	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0
言語聴覚士	22	0	0	0	0	20	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床検査技師	38	0	0	2	0	0	0	1	0	0	27	12	0	0	0	0	0	0
理学療法士	28	0	0	0	0	1	1	0	7	0	0	0	0	18	1	0	0	0
作業療法士	8	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	4	0	0	0	0
栄養士	7	0	0	0	0	5	2	0	2	0	0	2	3	2	0	2	0	0
社会福祉士	18	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	14	0
診療放射線技師	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
精神保健福祉士	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
臨床心理士	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	0
臨床工学技士	18	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	15
園芸療法士	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

※病棟看護業務の効率化のために、薬剤師への薬剤管理、医療クラークへの書類管理などに期待が寄せられている。

参考資料2
21.6.11

中央社会保険医療協議会・診療報酬調査専門組織

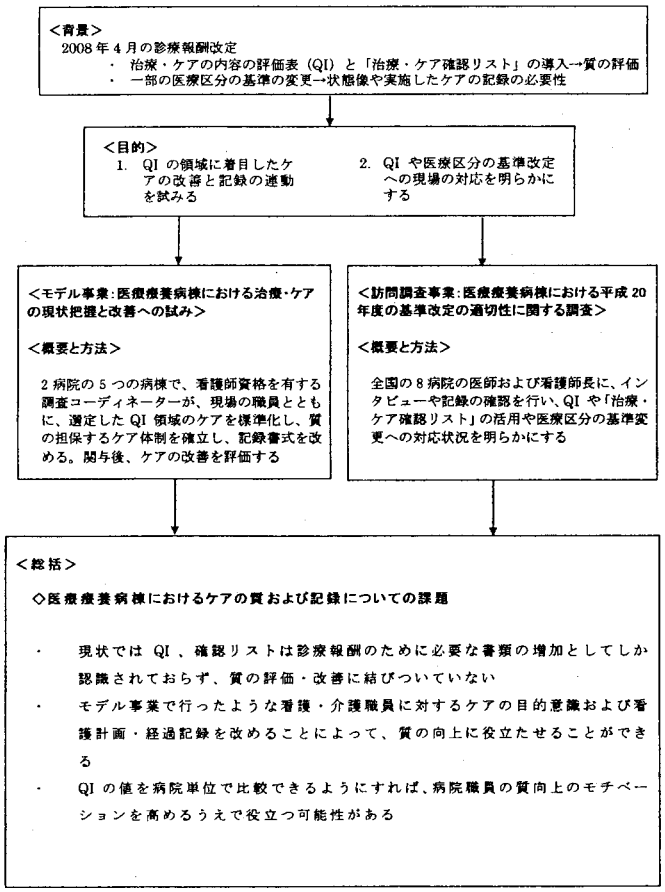
慢性期入院医療の包括評価調査分科会提出資料

「患者分類に基づく慢性期入院医療の質の評価等に関する調査研究」報告書（概要）

平成21年6月11日

健康保険組合連合会

〈総括図〉



「患者分類に基づく慢性期入院医療の質の評価等に関する調査研究」報告書（概要）

1．事業の背景

平成20年度の診療報酬改定により、医療療養病棟に「治療・ケアの内容の評価表（Quality Indicator, QI ）」による評価と、該当患者に対しては「治療・ケア確認リスト（確認リスト）」に基づいて治療・ケアの内容を確認することが求められるようになった。また、医療区分に分類する基準の一部が変更された。こうした施策を受けて、以下の2つの事業を行い、今後の医療療養病棟におけるケアの質の向上のための課題を把握することとした。

2．事業の概要

1つの事業は、QI に着目したケアの質と記録の質を確保するための2病院（A・B）におけるモデル事業である。看護師資格を有する調査コーディネーターが現場に関与して、QI として褥瘡、身体抑制、ADL を選び、それぞれについてケアを標準化し、質を担保するように各病棟におけるケアの体制及び記録書式を改めた。A病院では褥瘡と身体抑制を選び、QI の値そのものは改善しなかったが、看護・介護職とのコミュニケーション機会の増加、意欲の向上、カンファレンスの定着、確認リストに対応した記録の充実などの成果があった。B病院では、QI で規定した ADL の低下ではなく、向上を指標として選び、改善した事例がみられた。また、リハビリテーション部門と病棟ケアの連携の重要性が認識され、ADL に着目した看護記録が増えた。

もう1つの事業は、現場における QI 及び確認リストの活用と、医療区分の基準変更への対応状況を把握するための訪問調査である。全国の8病院に対して、医師、看護師長にインタビューをするとともに、該当患者の記録および状態を確認した。その結果、QI は記載されていたが、定義の理解が不十分なため、正しく算出されていない場合があった。また、質の評価としてはほとんど認識されていなかった。

次に、確認リストについては、「あり」に対応したケアの内容が、看護計画や経過記録において明確に記載されていなかった。さらに、医療区分の基準変更については、病院間や医師間で基準の解釈に幅があることが明らかになった。例えば、「酸素療法」は、毎月、酸素療法を必要とする病態かどうかの記録が求められているが、実際に記録が確認できたのは2病院のみであった。一方、「うつ症状」や「暴行」は、判断基準や治療・ケアの対応方法について不安があるため、該当する場合もチェックされていない可能性が示唆された。

3．事業の結果

以上、2つの事業を通して、以下の点が明らかになった。

第1に現状では QI 、確認リストは診療報酬のために必要な書類の追加としてしか認識されておらず、質の評価・改善に結びついていない。

第2に、モデル事業で行ったような看護・介護職員に対するケアの目的意識および看護計画・経過記録を改めることによって、質の向上に役立たせることができる。

第3に、QI の値を病院単位で比較できるようにすれば、病院職員の質向上のモチベーションを高めるうえで役立つ可能性があることが示された。